



BETモジュール4

影響度の管理および緩和（ミティゲート）

メインプレゼンテーション

英語版発行 2012年2月

（日本語訳発行 2014年3月）



BET 日本語訳版の発行にあたって

ビジネス エコシステムズ トレーニング (BET)の開発の構想が2011年4月にWBCSDから発案されて以来、日立製作所はWBCSDのメンバー企業として、また、生態系フォーカスエリアの共同議長の役割を果たすべく、BETの開発にアドバイザー委員会(Advisory Committee)のメンバーとして参画して参りました。この度、BETの日本語訳版を発行することに携わる機会を得てBETの日本語版の発行に至りました。日本の企業の皆様や生態系保全への知識の幅をさらに広げたいと願う多くの方々に、幅広くご活用頂ければ幸いです。

BETでは、生態系保全と企業とのかかわり方をいかに本業の中に組み込んで戦略化させていくかを考える為に必要な多くの知識や考え方が紹介されています。教材は4つのモジュールから構成され、各モジュールの講義形式での実施時間は4時間と充実した内容となっております。全部または一部を、各社や教育機関等でご活用される方が増えることを期待しています。

(株) 日立製作所
CSR・環境戦略本部

ビジネス・エコシステムズ・トレーニング (Business Ecosystems Training) — 協力団体

すべての内容は、WBCSD資料および公的に入手可能な報告書に基づいています。

BETのカリキュラムおよび構成は、により作成されました。

BETの構成および内容の開発は、WBCSDメンバー企業、リージョナル・ネットワーク・パートナー、NGO、国連、および学術機関から構成されるアドバイザリー委員会(Advisory Committee)により監修されました。



第1章 自己紹介と導入

[オプション1]

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



第1章 導入

[オプション2]

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



自己紹介と導入(続き)

[オプション1]

- a) 現在の役割および仕事上の任務・役職
- b) 生態系への影響度を測定する方法についての知識
- c) このコースおよびモジュール4で学びたいこと



導入

[オプション2]

✧ あなたの番です！



導入

[オプション3]

話し合しましょう。

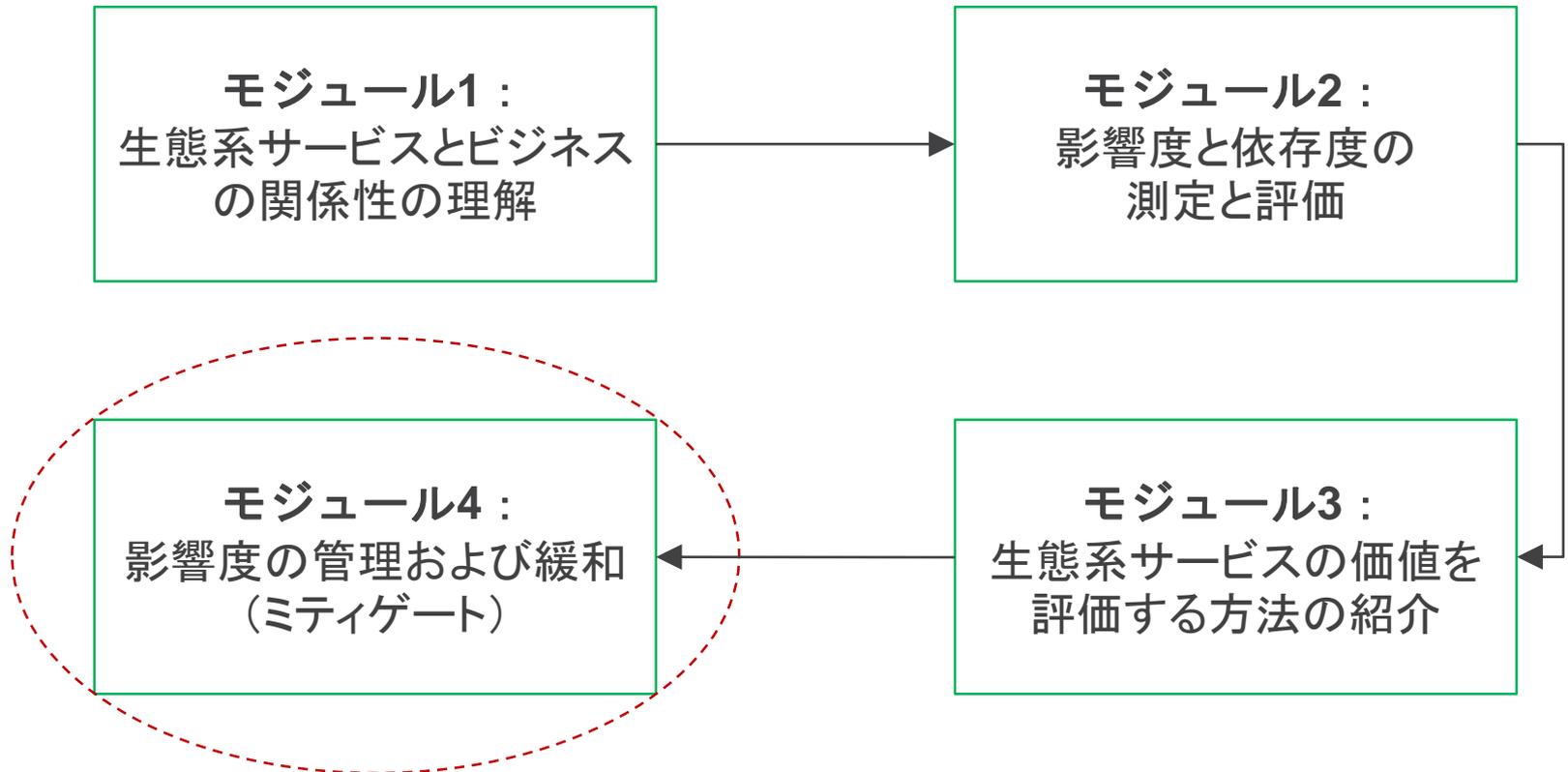
✧ モジュール4で何を身に付けたいですか？



5 分間



モジュール4は研修全体の中でどこに属するでしょうか？



モジュール1 おさらい

[オプションモジュールおさらい]

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 変化の要因、およびビジネスの影響度と依存度
- ✧ 持続可能性との関係
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 政策と規制の枠組み



モジュール2 – おさらい

[オプションモジュールおさらい]

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 政策と規制の枠組み
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 「企業のための生態系サービス評価（ESR）」の紹介
- ✧ ツール、枠組み、および手順の紹介



モジュール3 おさらい

[オプションモジュールおさらい]

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 政策と規制の枠組み
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 「企業のための生態系評価ガイド（CEV）」の紹介
- ✧ CEVスクリーニング・支援ツールと方法論

モジュール4 — 目標

このモジュールを終えると、受講者は以下ができるようになります。

1. 環境への影響に対処して影響度を緩和(ミティゲート)するため、そしてより良い経営に向けてビジネス手法を強化するために、主要な方針および方針メカニズムを定義する。
2. 影響度を管理および緩和(ミティゲート)するためにビジネス事例を明らかにする。
3. 階層的な緩和措置(ミティゲーション)を適用する。つまり、企業が、自らが与えた影響に対して緩和(ミティゲーション)、オフセット、および補償をどのようにするかというアイデアを発展させる。
4. 規制上の枠組みおよび政策の仕組みが、研修受講者の雇用主にどのように関連しているかを、行動計画を通して明らかにする。



モジュール4 ー 概要

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 政策および規制の動向
- ✧ 階層的な緩和措置(ミティゲーション)
- ✧ 補償およびオフセット
- ✧ 報告および指標
- ✧ 現行の政策および規制



モジュール4

時刻	時間(分)	章	講師
	10-40	第1章:導入	
	20	第2章:基本コンセプト	
	10	第3章:政策動向の紹介	
	45	第4章:階層的な緩和措置(ミティゲーション)の適用	
	30	休憩	
	10	第5章:理解度チェック	
	40	第6章:補償およびオフセット	
	25	第7章:報告および指標	
	20	第8章:政策の枠組み	
	15	第9章:知識の共有	
	10-25	第10章:まとめ	
研修終了			



企業のコミットメント

Rio Tinto :

「我が社の目標は、我が社の活動によるマイナスの影響を最小限にし、我が社が活動する地域の保全に適切に貢献することにより、生物多様性へのネットポジティブインパクトを実現すること。」

“ Our goal is to have a net positive impact on biodiversity by minimizing the negative impacts of our activities and by making appropriate contributions to conservation in the regions in which we operate.”

出典： <http://www.riotinto.com/documents/ReportsPublications/RTBiodiversitystrategyfinal.pdf>

PepsiCo :

「水に困窮する地域の業務で『プラスの水収支』を生むために努力する」

“Striving for “positive water balance” in our operations in water-distressed areas”

出典： http://www.pepsico.com/Download/Positive_Water_Impact.pdf

Walt Disney :

「生態系にネットポジティブインパクトを与えるという長期目標」

“Long term objective of having a net positive impact on ecosystems”

出典： <http://corporate.disney.go.com/citizenship2010/environment/overview/ecosystems/>



企業のコミットメント

Sony :

「Sonyは、製品のライフサイクルおよびビジネス活動の始めから終わりまで環境フットプリントがゼロになるよう努力する。」

“Sony strives to achieve a zero environmental footprint throughout the lifecycle of our products and business activities.”

出典: <http://www.sony.net/SonyInfo/csr/environment/management/gm2015/index.html>

Walmart :

「Walmartの米国施設1エーカーごとに1エーカーの土地を保護する。」

“A pledge: to protect one acre of conservation land for every acre occupied by Walmart’s US facilities.”

出典: <http://walmartstores.com/Sustainability/5127.aspx>

The Coca-Cola company :

「我が社の飲料の生産に使用されるのと同量の水を、自然と地域に安全に返すよう努める。」
(2020年まで)

“Work to safely return to nature and communities an amount of water equivalent to what we use in our beverages for their production” (by 2020).

出典: http://www.thecoca-colacompany.com/citizenship/water_main.html

Kimberly-Clark :

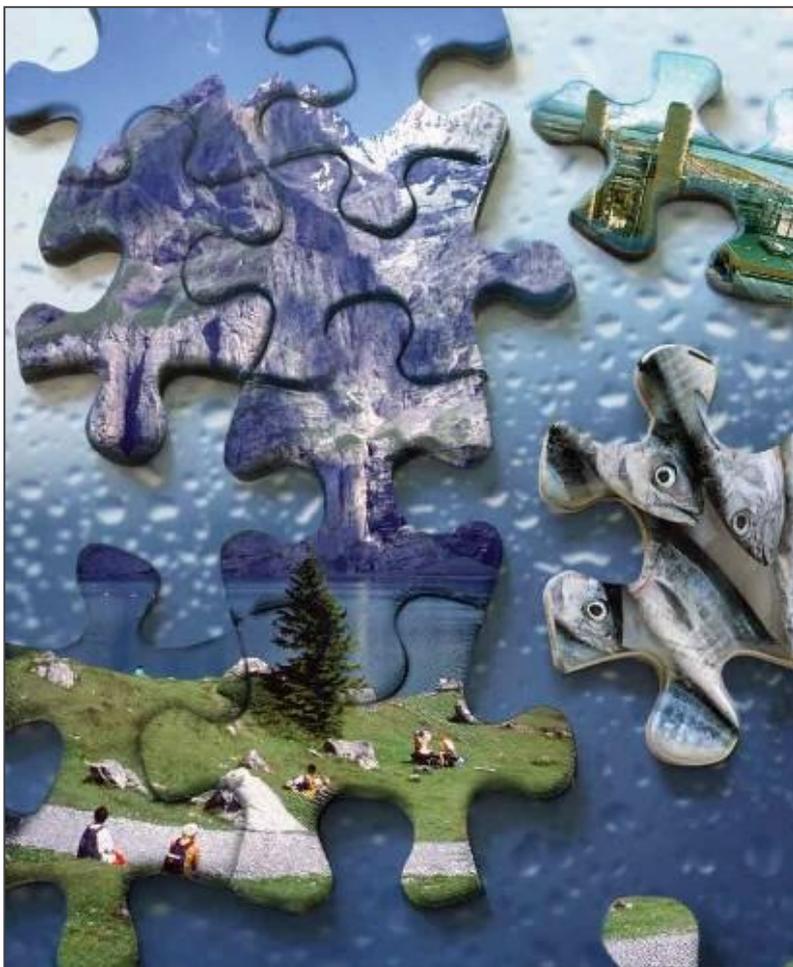
「2015年までに、原料となる木質繊維の調達元を100%認証供給者からとする。(FSC認証)」

“100% of the virgin wood fiber to be sourced from certified supplier by 2015 (FSC Certification)”

出典: http://www.cms.kimberly-clark.com/UmbracoImages/UmbracoFileMedia/2010SustainabilityReport_umbracoFile.pdf



経済的な基盤としての生態系



ビジネスでは、生態系を次のように考える必要があります。

- ✧ 貴重な資産および自然の資本
- ✧ 基礎基盤の要素
- ✧ 生産、消費、取引、および投資を支えるもの

従来のインフラの定義では、大抵、自然の生態系が除外されていました。

経済基盤として生態系を重視し、生態系に投資することが利益につながります。

出典：WBCSD, Connecting the dots



第2章 基本コンセプト

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



wbcSD business ecosystems training

階層的な緩和措置(ミティゲーション)

- ✧ 緩和(ミティゲーション) = 想定される環境への影響度を責任を持って管理する行動
- ✧ 「階層的な緩和措置(ミティゲーション)」のコンセプトでは5段階を提案
- ✧ 米国やその他一部の国々における生物多様性オフセットシステム



出典: WBCSD, CEV helpdesk presentation July 2011



生物多様性オフセット

以下によりもたらされた測定可能な保全結果:

- ✧ 生物多様性に対する、重大な残存する悪影響の補償
- ✧ 特に、適切な予防・緩和措置(ミティゲーション)の後にも持続する影響の補償

生物多様性オフセットの目標:

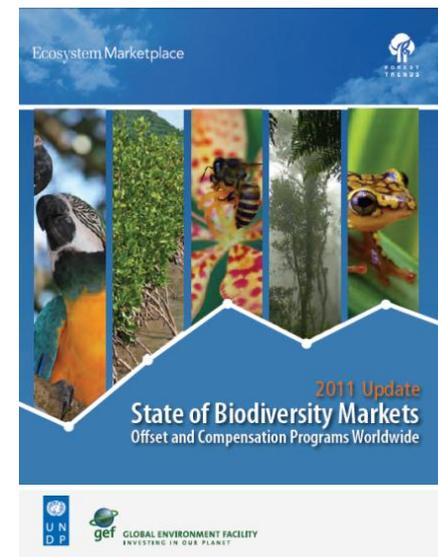
- ✧ 生物多様性をノーネットロスとし、できればネットゲインを出す。



生物多様性のマーケット — 概説

- ❖ 45件の補償緩和(ミティゲーション)プログラム(生物多様性バンキングおよびオフセット)があり、そのうち27件は現在開発中。
- ❖ 多数の個別のオフセットサイト(1,100件以上のバンキング)
- ❖ 国際的な年間市場規模は、最低でも24~40億米ドル、恐らくはそれ以上(全プログラムの80%は、透明性が低く、市場規模の見積りがむずかしい)。
- ❖ 保全の影響度:年間187,000ヘクタール以上
- ❖ 北米優位:20~34億米ドル。年間15,000ヘクタール以上、累計50万ヘクタール以上

出典: Madsen et al, *Ecosystem Marketplace* (June 2011)



生物多様性オフセット — 例

オーストラリア — BushBrokerプログラム

- BushBroker — 政府運営のブローカー
- 政府が開始時の資金を拠出し、現在費用回収中
- 最初の取引は2007年5月
- 原生林の伐採を規制
- 今まで3,400万ドルを超える取引でオフセットが発生
- 将来使用するためのクレジットの「預金」も許されている。



写真提供: Bush Brokers

出典: BBOP, Within The Mitigation Hierarchy



生態系サービスへの支払い(PES)

主要メッセージ

- ✧ PESは、生態系サービスへの依存が明らかにされたリスクの緩和措置（ミティゲーション）や管理を支援できます。
- ✧ 企業が、生態系サービスの利益を他者に提供している箇所を明確にすれば、PESは新しい収入源の機会を提供できます。
- ✧ PESのような計画に積極的に携わることにより、規制による予定外の費用の発生を回避できます。



生態系サービスへの支払い(続き)

PESの例

流域サービスへの公平な支払いプログラム (EPWS: The Equitable Payments for Watershed Services Program) — タンザニア

- ❖ ウルグル山地および東ウサンバラ山地 — Ruvu川およびSigi川の流域はダルエスサラームおよびタンガなどの都市の主な水源となっています。
- ❖ ダルエスサラームでは、400万人の居住者および工業用水の80%に水を供給しています。
- ❖ 公共の水道事業では、Ruvu川の堆積の増加のため、水処理に年間約200万米ドルを費やします。
- ❖ EPWSの目的: 上流の利用者(農民など)に補償を行って土地利用を管理することにより(土壌侵食を抑制するとともに、他の持続可能な利益がある)、下流の利用者への供給を改善します。
- ❖ 2008年現在、DAWASCOおよびCoca-Cola社には450以上の農家が登録しています。



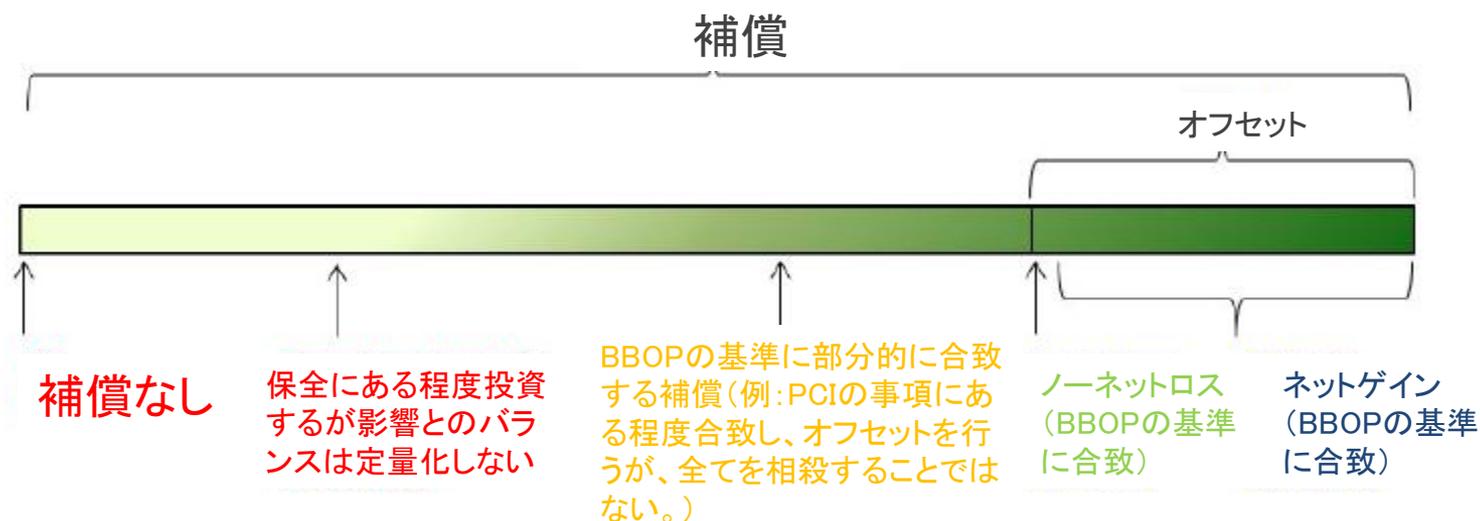
写真提供: PRESA



補償措置

生物多様性の観点から

「補償措置には、生育種や関連する種への残存影響の埋め合わせとして、生育種の回復、創生、強化、または損失・劣化の回避が含まれます。」



出典:

BBOP glossary, <http://bbop.forest-trends.org/guidelines/glossary.pdf>

BBOP Standard on Biodiversity Offsets, <http://bbop.forest-trends.org/guidelines/Standard.pdf>



wbcSD business ecosystems training

英語版 2012年2月
(日本語訳版 2014年3月)

発展中の国際的な仕組みの例

GDI(The Green Development Initiative: グリーン開発へのイニシアティブ)

- ✧ 当初の名称はGreen Development Mechanism(2011年10月改称)
- ✧ 生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)への対応
- ✧ 「生物多様性に対する革新的な国際的資金調達」
- ✧ CBDに準拠した土地管理のための国際標準および認証制度の確立を目的とする。



グリーン開発

グリーンエコノミー(The Green Economy)

「グリーンエコノミーにより、環境と生態系の犠牲を大幅に削減しながら、人間の福利と社会的公正を向上することができます。」UNEP

緑の成長(Green Growth)

「緑の成長とは、人間の福利が依存している資源と環境サービスを自然資産が提供し続けることを保証しながら、経済の成長と発展を促進することです。」

OECD

緑の成長は**持続可能な発展**のコンセプトに基づいていますが、社会的側面というよりも環境的側面が重視されています。

出典：WBCSD, CEV helpdesk call (September 2011)



調達方針(サプライチェーンの管理)

持続可能な調達のプロセスでは、組織は供給品やサービスを購入する際に、その製品やサービスのライフサイクル全体の最大金銭的価値、そして最大の環境および社会に関する価値を考慮します。

例:

- ✧ ベルギー政府調達方針
- ✧ ドイツ調達方針
- ✧ グリーンピースの責任ある調達方針
- ✧ 国連金融公社(IFC)調達方針
- ✧ Kimberly-Clark社
- ✧ Sompo Japan(損保ジャパン)社
- ✧ Unilever社



グリーン開発(続き)

グリーン成長の5つの側面

- ✧ 気候変動への適応と緩和
(ミティゲーション)
- ✧ 低炭素成長
- ✧ 公正な成長
- ✧ 強い群生および生息地
- ✧ 貴重な自然資本



出典: PwC and WWF



第3章 政策動向への導入

[オプション章]

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



生態系関連の政策の背景

✧ 環境政策の長い歴史

- A. 1388 年水質汚染ガイドライン
- B. 英国アルカリ法 (UK Alkali Act, 1863年) で産業公害を制限

✧ 成長の限界(1972年)

- モデルとする世界人口、産業化、公害、食糧生産、資源枯渇

✧ ブントラントレポート(Brundtland Report, 1987年)

- 持続可能な発展を定義
- さらなる国際協力の呼びかけ

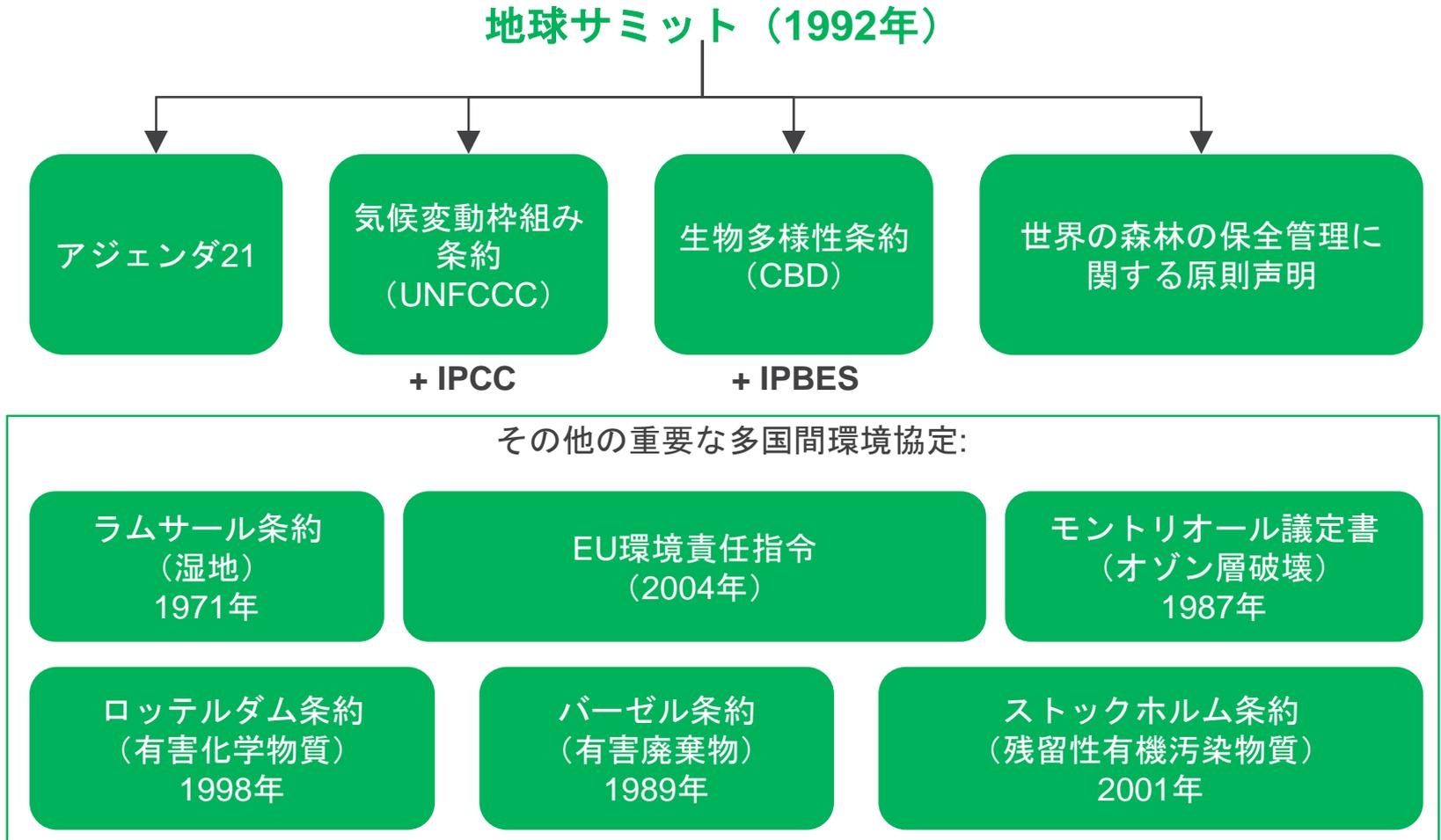
✧ 会議、条約、議定、協定…

- 250件を超える多国間環境協定が存在

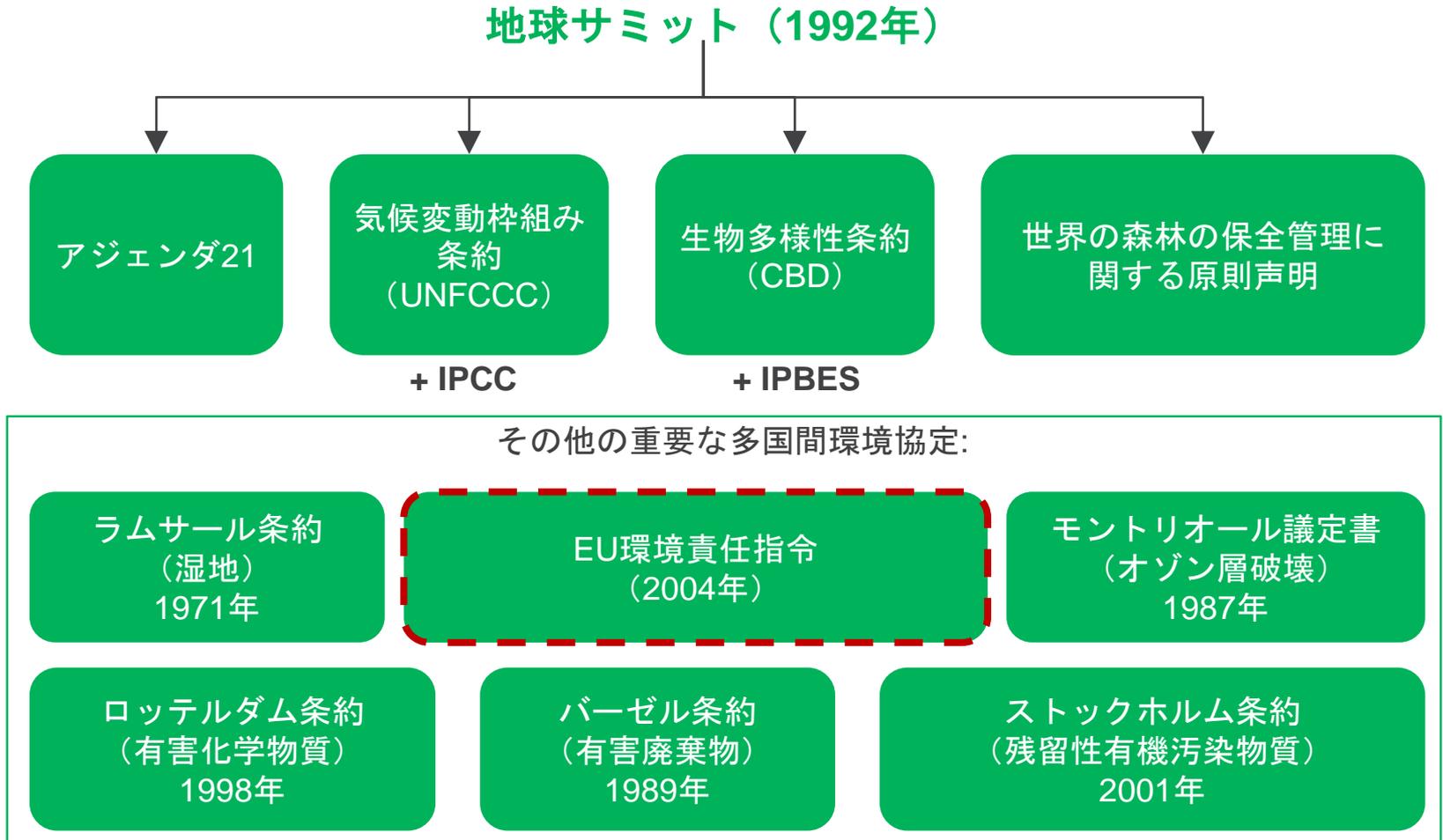
✧ 地球サミット(1992年) – リオプロセス(The Rio Process)の開始



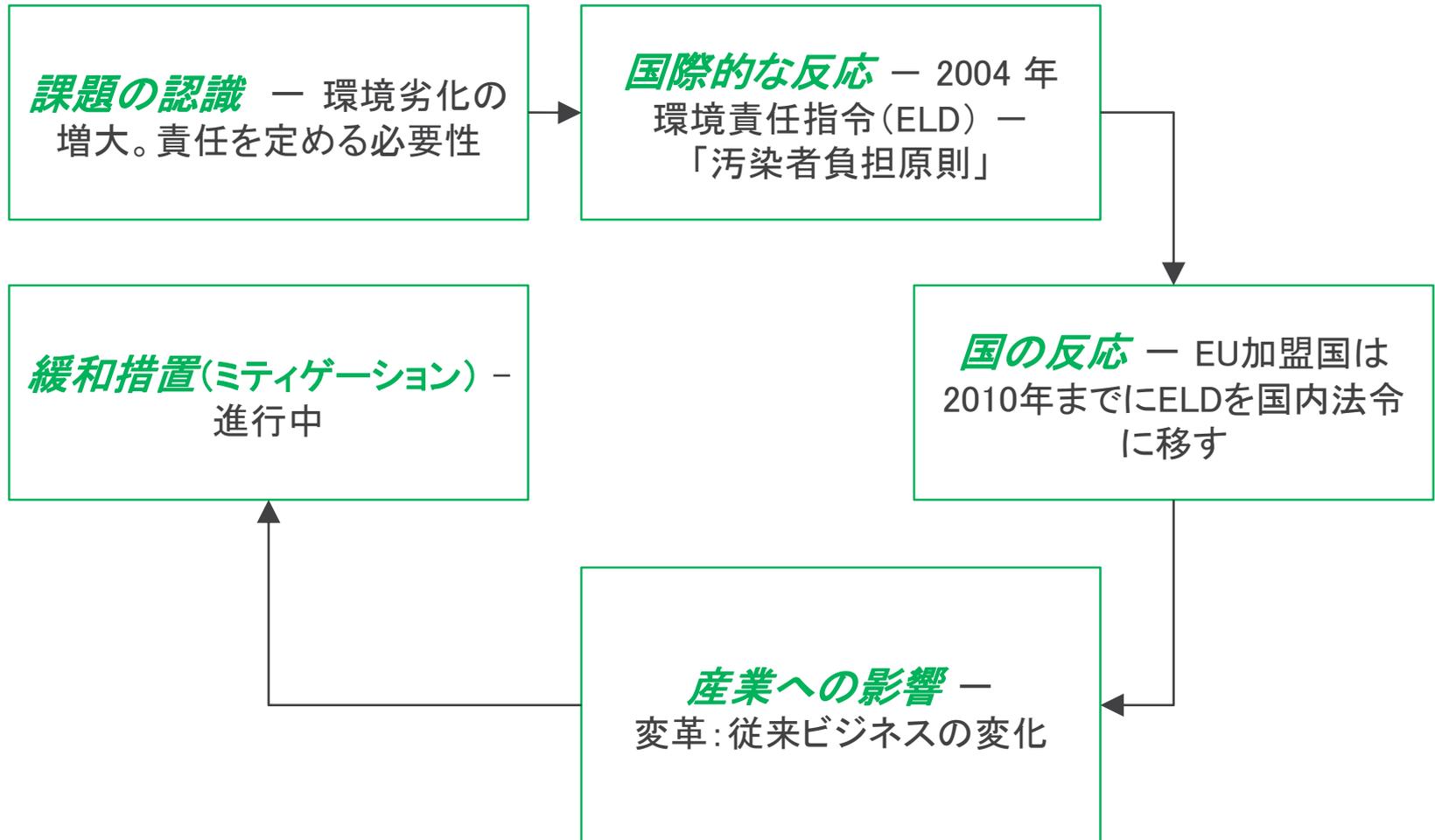
生態系関連の政策の背景（続き）



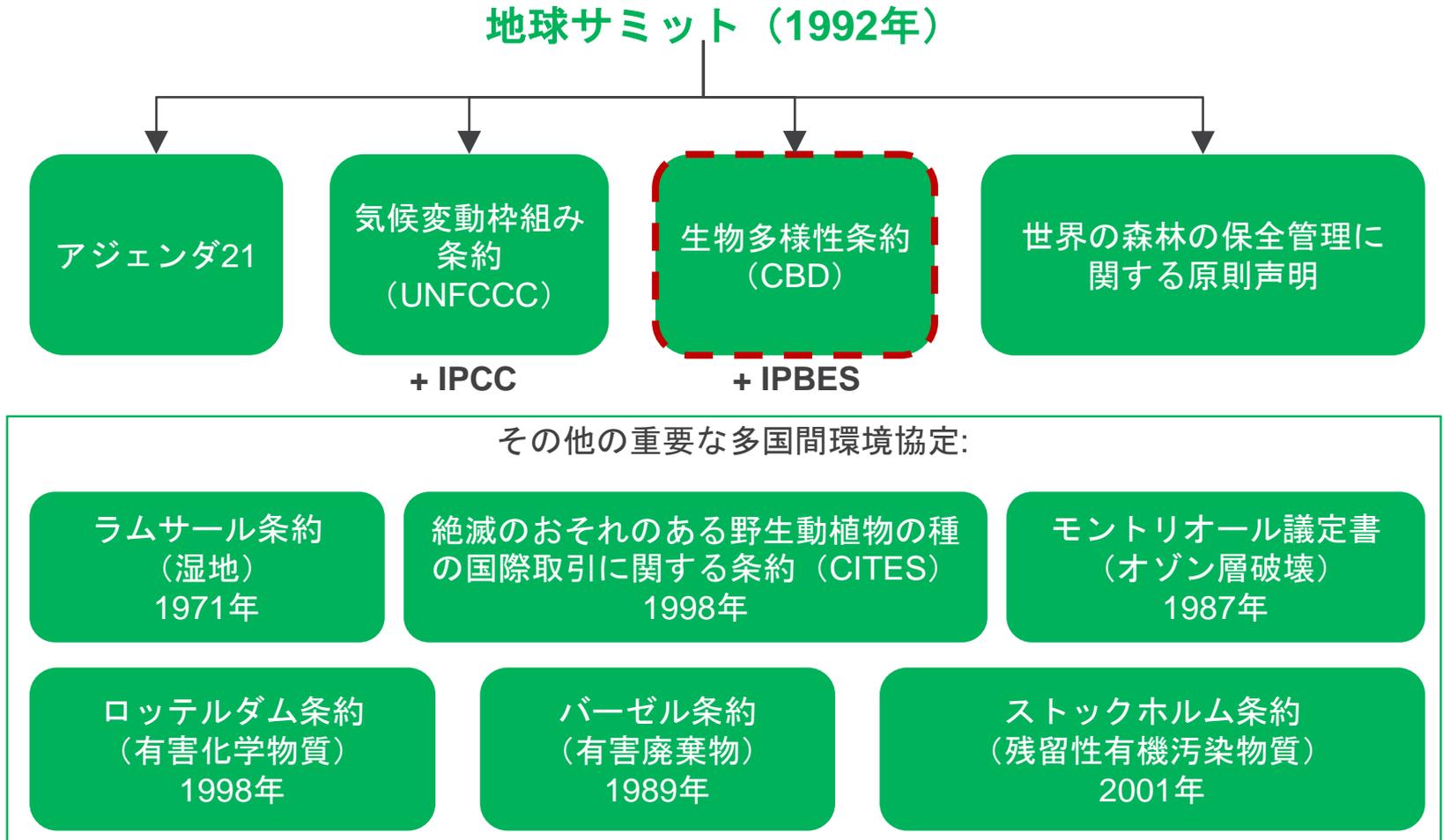
生態系関連の政策の背景（続き）



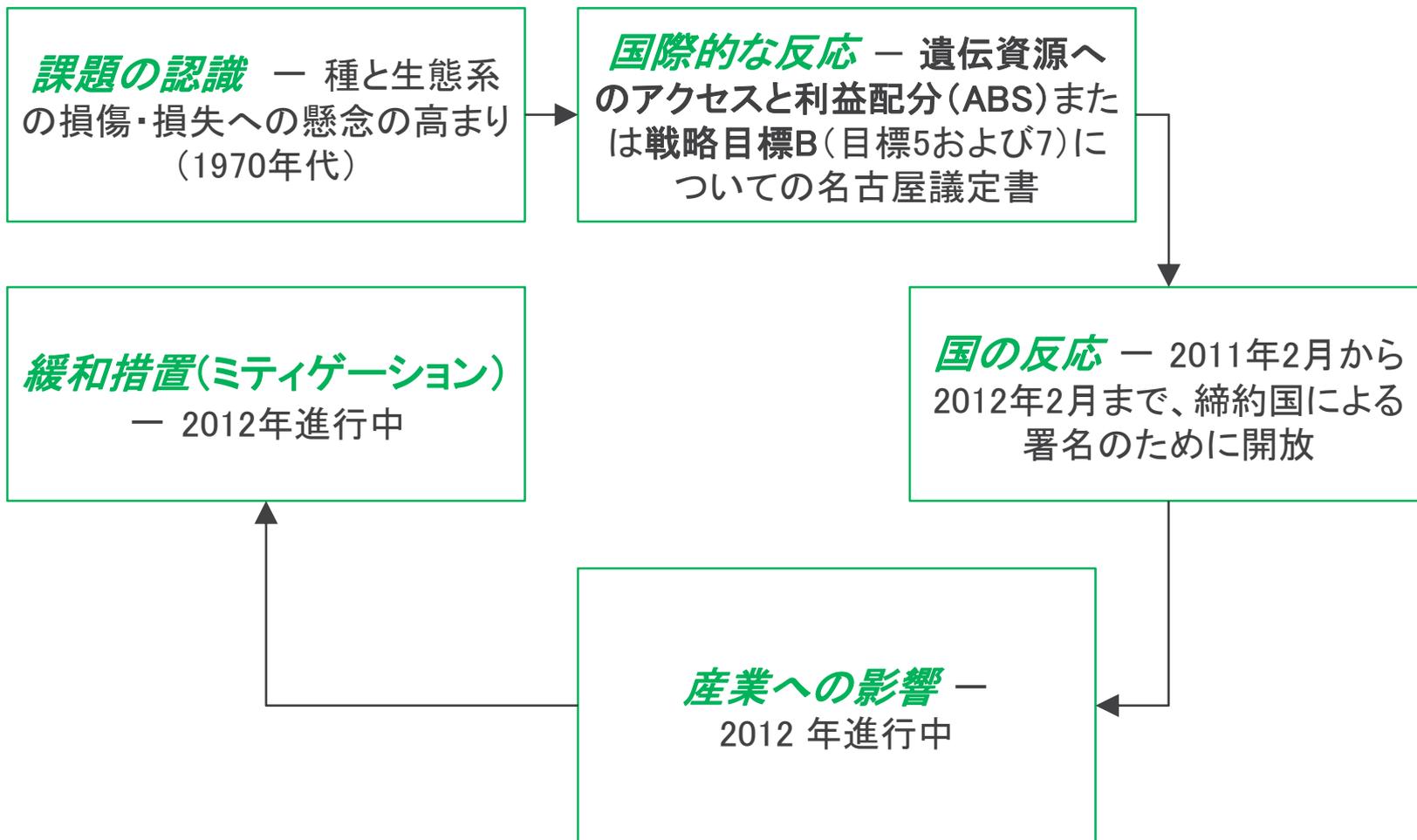
国際政策の動向： 環境責任指令(Environmental Liability Directive)の例



生態系関連の政策の背景（続き）



国際政策の動向：生物多様性条約(CBD)の導入



モジュール4 ー 概要

- ✧ 基本事項の理解度 ✓
- ✧ 政策および規制の枠組み ✓
- ✧ 階層的な緩和措置(ミティゲーション)
- ✧ 補償およびオフセット
- ✧ 報告および指標
- ✧ 現行の政策および規制



第4章

階層的な緩和措置（ミティゲーション）の適用

モジュール4：影響度の管理および緩和（ミティゲート）



wbcasd business ecosystems training

「ノーネットロス」



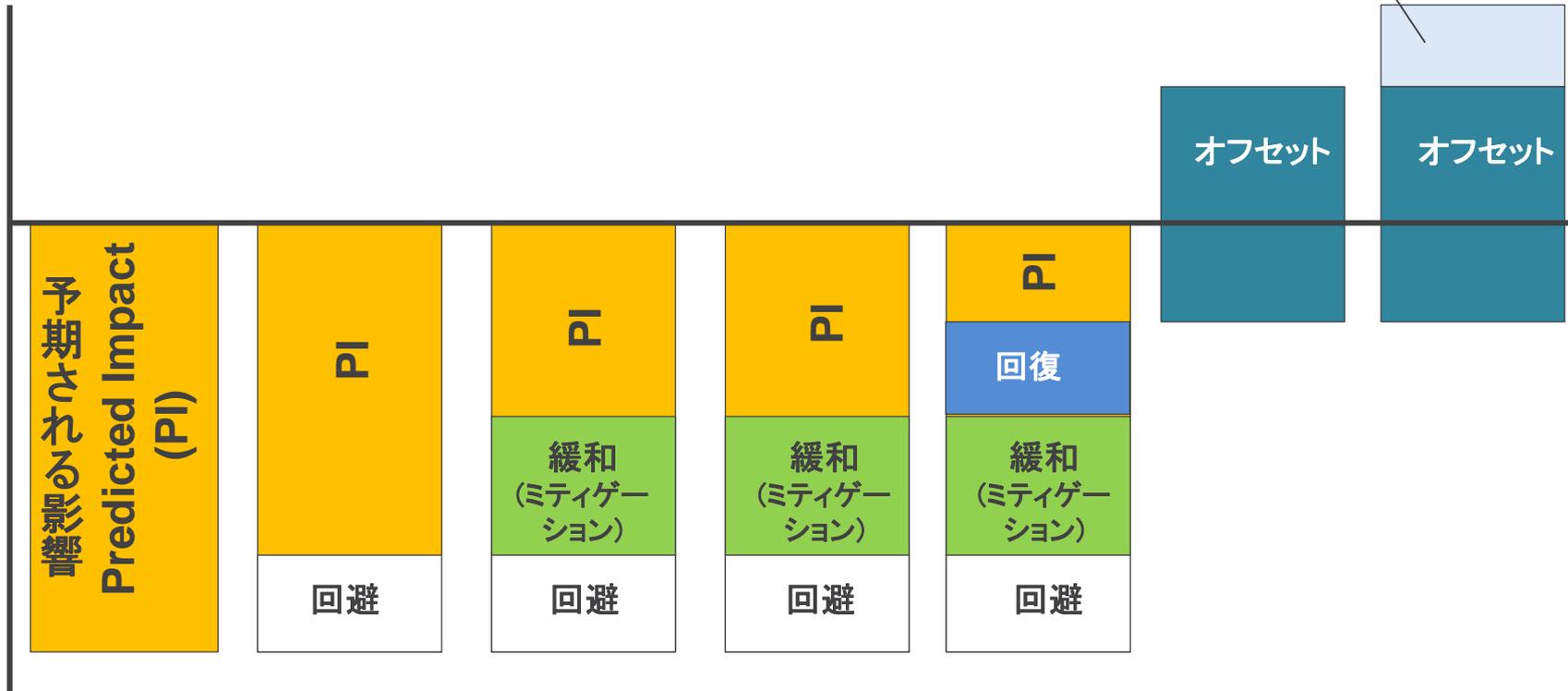
- ❖ ノーネットロス: プロジェクトによる生物多様性への影響は、プロジェクトによる影響を回避・最小化し、現場の回復に取り組み、最終的には残存する影響の埋め合わせをするという措置により清算され、損失は残りません。
- ❖ ネットポジティブインパクトを目指すことにより、一段階先を考えている企業もあります。(例: 複数の事業にわたって、または新しい開発すべてにおいての取り組み)



生物多様性オフセットおよび影響度緩和(ミティゲーション) ー おさらい

階層的な緩和措置(ミティゲーション)：

生物多様性へのプラスの影響度



生物多様性へのマイナスの影響度



出典：Adapted from Rio Tinto and Western Australia EPA

wbcSD business ecosystems training

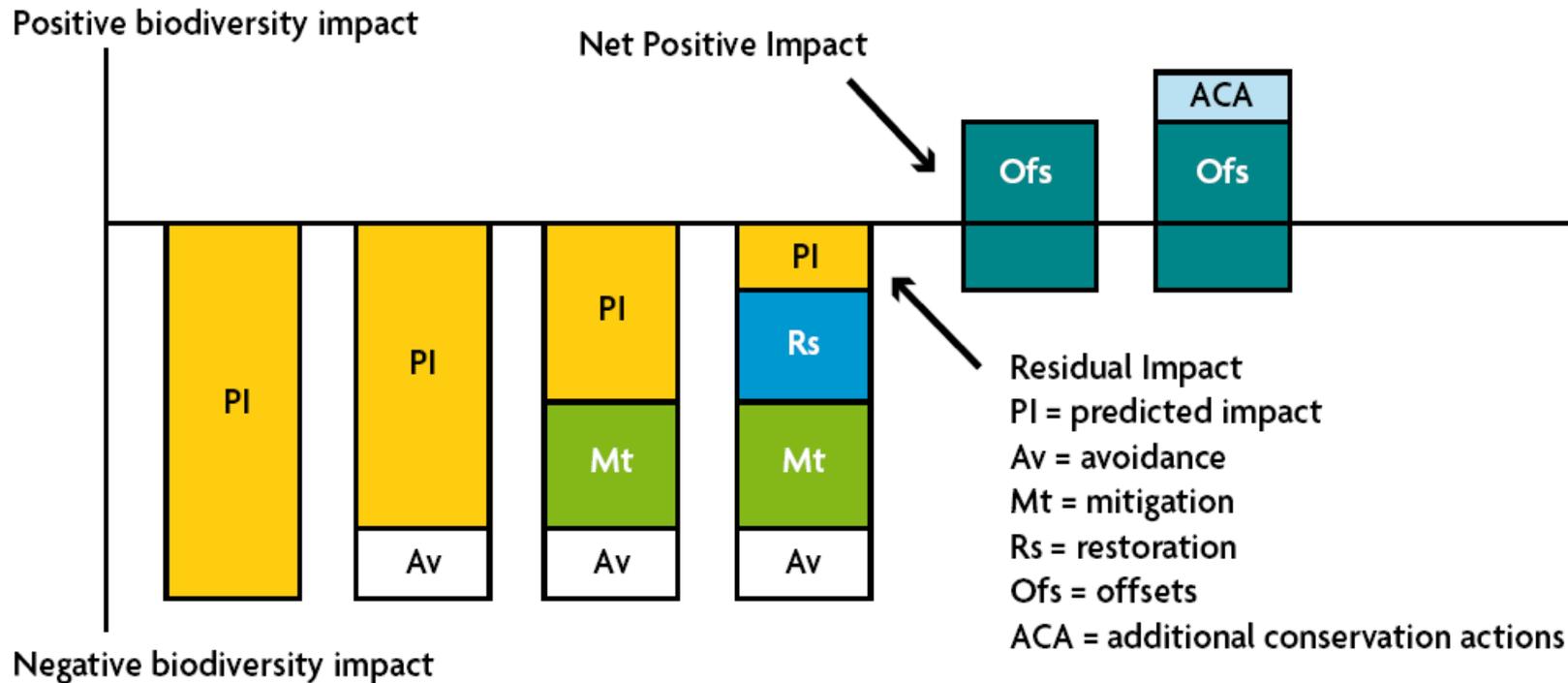
英語版 2012年2月
(日本語訳版 2014年3月)

ケース・スタディー: Rio Tinto社

- ✧ Rio Tinto社の長期目標は、生物多様性にネットポジティブインパクトを与えることです。
- ✧ 以下によるプラスの活動は、採掘および選鉱に関連する不可避のマイナスの影響に勝ります。
 - 階層的な緩和措置(ミティゲーション) (回避、緩和、回復)
 - オフセットおよび他の保全活動



Rio Tinto社のゴール



Sources: adapted from Rio Tinto and Western Australia EPA



ケース・スタディー・エクササイズ — Suncor Energy社

課題

再生活動(reclamation)の目的

- ✧ カナダ最大の統合エネルギー会社
- ✧ オイルサンド(油砂)生産のリーダー
- ✧ 精製およびマーケティング、天然ガス生産および従来型石油生産という補完型の事業展開
- ✧ カナダ北方林、アルバータ州でのオイルサンド事業
- ✧ 会社は以下についてコミットメントしている：
採掘作業で荒らされたすべての土地を、可能なかぎり採掘前に近い状態に戻すこと
- ✧ 再生(reclamation)は規制上の要求事項であり、主要なステークホルダーが期待していることでもある。



グループ・エクササイズ：フリップチャート・レイアウト

影響を受けている
生態系サービスは？



アプローチは？



質問・意見・感想…



ケース・スタディー・エクササイズー Suncor Energy社

対応

持続的な調査と革新に基づく手法

- ✧ 新しい採掘場または設備を建設する前に、Suncor社は地元のステークホルダーおよび政府の規制担当者と再生計画を立てる。
- ✧ 再生計画には、現場作業の影響を受ける土地の整地および再生も含まれる。
- ✧ 再生計画はアルバータ州政府により承認される。
 - オイルサンドの尾鉱池を、生態系サービスを支えられる固形物(solid material)に転換。
 - 再生された地形が植物や野生生物を支えられるよう再緑化。



ケース・スタディー・エクササイズー Suncor Energy社

結果

池1

- ❖ かつてのオイルサンド尾鉱沈殿池の最初の表面再生の事例:「池1」
- ❖ 1960年代に作られた220ヘクタールの池を、最終的に混交林と小湿地に転換する計画。
- ❖ 2007年に再生を開始(進行中)。
- ❖ 2010年の最初の6か月だけでも、用地内に150,000本以上を植樹。
- ❖ Suncor社は、進行中の再生により、尾鉱沈殿池の表面を通行可能にした最初のオイルサンド会社になった。
- ❖ 革新的な再生とステークホルダーとの協議を組み合わせることで、この会社はより高い「ソーシャル・ライセンス」を得ることを目標としている。



ケース・スタディー・エクササイズー Suncor Energy社

結果(続き)



モジュール4 ー 概要

✧ 基本事項の理解 ✓

✧ 政策および規制の枠組み ✓

✧ 階層的な緩和措置(ミティゲーション) ✓

✧ 補償およびオフセット

✧ 報告および指標

✧ 現行の政策および規制



休憩



30分



第5章 理解度チェック

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



wbcSD business ecosystems training

研修受講者間の対話

- ✧ 主要なコンセプト
- ✧ 知っていますか？



第6章 補償およびオフセット

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



wbcSD business ecosystems training

オフセット(Offsetting)

オフセットについて説明できますか？

ビジネスと生物多様性オフセットプログラム(BBOP)の定義：

「開発事業において、生物多様性への悪影響に対する適切な回避・緩和措置(ミティゲーション)を実施した後になお残る生物多様性への多大な悪影響を代償するためにとられた措置の結果得られる、測定可能な保全の成果」

生物多様性オフセットの目標は、種の構成、生息地の構成、生態系機能と生態系の人による活用と生物多様性に関する文化的価値という点から生物多様性のノーネットロスあるいはネットゲインを実現すること。」



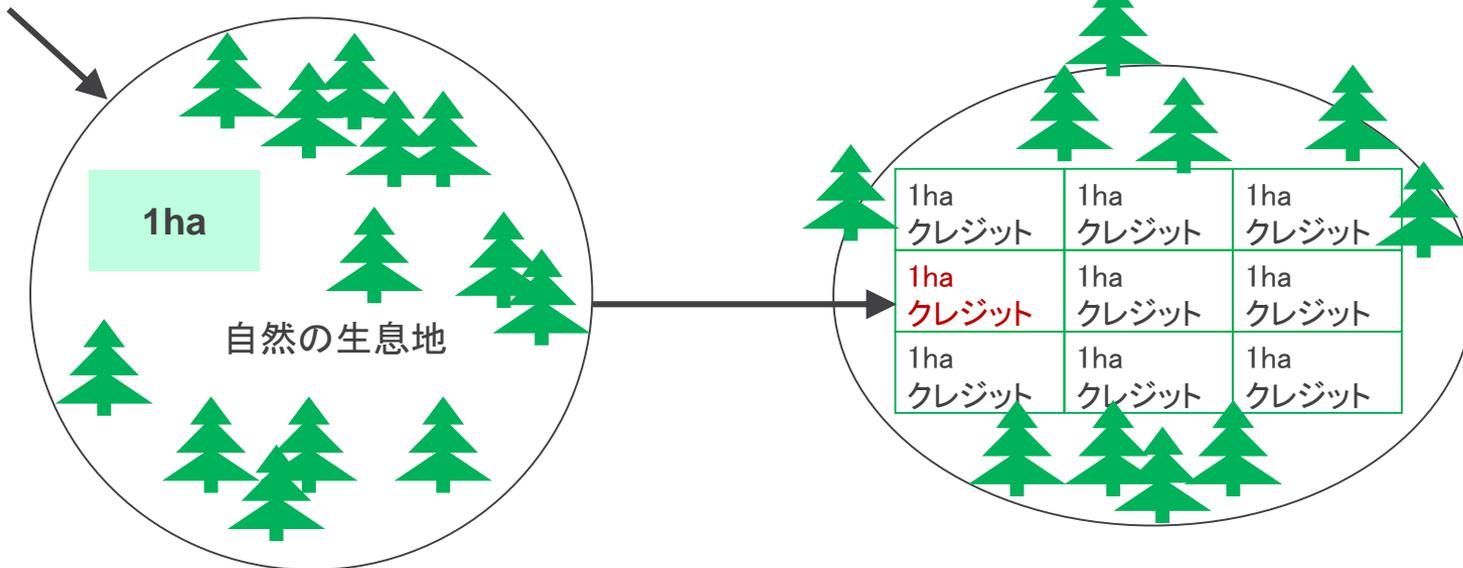
生物多様性のオフセットとは？



開発プロジェクト



生物多様性オフセット



出典: BBOP



生物多様性オフセットに関するBBOPの基準ガイド

目的

- ✧ 監査人がBBOP基準への適合を査定するのを支援
- ✧ 企業がオフセットを作成および実施するのを支援

- ✧ **原則**: 望ましい結果についての基本声明
- ✧ **基準**: 原則に従うために満たすべき条件
- ✧ **指標**: 特定の基準が満たされたかどうかを判断するための測定可能な状態であること。



IFCパフォーマンス・スタンダード6

「生物多様性の保全および自然の生物資源の持続可能な管理」

- ❖ 生物多様性をノーネットロスとし、さらに可能であればネットゲインの達成が期待できる測定可能な効果
 - 自然の生息地: 実現可能ならば、ノーネットロス
 - 絶滅の危機にある生息地: ネットゲイン
- ❖ 生物多様性オフセットの作成は、「同等以上の状態」の原則を忠実に守る必要がある。
- ❖ 入手可能な最も良い情報と現在のやり方に合致して実行される必要がある。
- ❖ オフセットの作成と実施の知識のある外部専門家を参加させる必要がある。



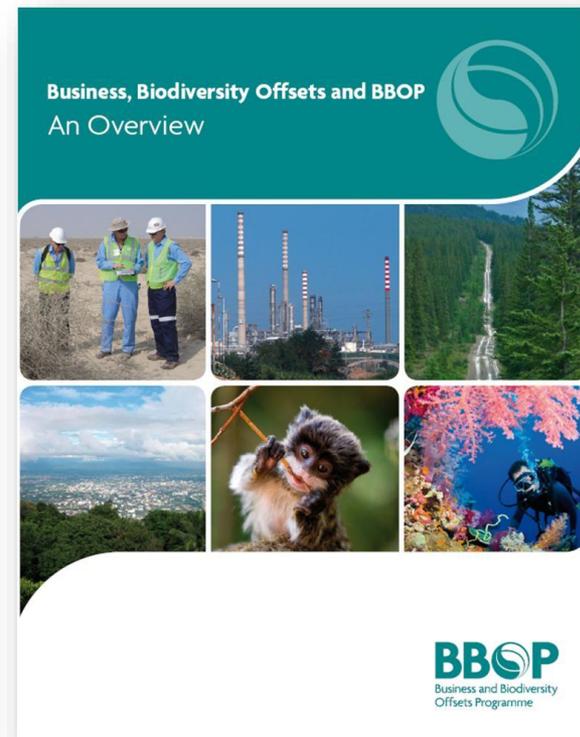
オフセット実施のための要因

生物多様性市場の要因を大別すると、以下のようになります。

- ✧ 法規制の順守
- ✧ 金融サービスの拡大
- ✧ 政府が仲介する支払い
- ✧ 自発的供給

オフセット(BBOP方式)の実施における主要な課題

- ✦ 代償
- ✦ リスク管理および結果の保証
- ✦ 先住権
- ✦ 許容できる影響の境界
- ✦ オフセットのための土地や海域の使用可能性
- ✦ 科学的不確実性およびデータギャップ
- ✦ ノーネットロスについての複数の定義と方法、および生物多様性の損益を定量化するための共通通貨の欠如
- ✦ 複数の利益のあるオフセット
- ✦ 能力(キャパシティ)



生物多様性オフセットの課題および現実的な解決策

課題

1. 政治的、環境的、および社会的な懸念事項
2. 生物多様性の測定基準または通貨における困難な課題
3. 生物多様性の代用性の欠如 – 炭素よりも複雑
4. 天然資源の利用権の維持
5. オフセットの機能不全

注記: 項目1および2は以下文献から引用。

Ekstrom, J (2011). Biodiversity Offsets. Everything you ever need to know in 10 minutes. Presentation to WBCSD, Montreux, 5th April 2011.



補償(Compensation) ケース・スタディー : EDP社

課題

送り状(インボイス)に関する環境への影響

- ✧ EDP社は、ポルトガルで一年に約3,400万通の紙の送り状を送付しています。環境への影響が無視できない量です。
- ✧ この影響を緩和(ミティゲート)するため、EDP社はまず、オンライン送り状サービスで毎月送付する送り状の数を減らすよう努めました。
- ✧ 2007年に開始してから2009年末までに、50万人を超える顧客がこの取り組みに参加しました。
- ✧ EDP社はさらに踏み込んで、自社の紙の送り状送付によるすべての影響を補償(compensate)したいと考えました。



補償(Compensation) ケース・スタディー: EDP社(続き)

対応

生態系への影響度の評価にライフサイクルアセスメントの手法を適用

- ✧ 「ゼロインパクト」と呼ばれるアプローチが、Lisbon school of engineering – Instituto Superior Técnicoで開発されました。
- ✧ 「ゼロインパクト」は、紙の送り状のライフサイクルの、すべてのマイナスの環境外部性を定量化し、対象とすることを目的としています。
- ✧ 使用ソフトウェア: Life Cycle Assessment (Sigma Pro 6.0)
 - 送り状の生成(紙、プラスチック、および印刷工程)および配達(燃料)に使用される資源、エネルギー、および設備を計上します。



補償(Compensation) ケース・スタディー : EDP社(続き)

対応(続き)

✧ 補償の取り組みの大部分は、農林複合経営の優れた実践にあり、農村地域で実施されています。以下のような取り組みが行われています。

1. 環境への影響度の補償は、同じ生態系サービス区分および(可能なら)同じ場所で行われます。
2. これが不可能な場合、補償は別の生態系サービスで行われます。

✧ 補償の取り組みは、生態系サービスへの影響の大部分をカバーします。

✧ 農林複合経営の取り組みに含まれない残りのマイナス影響は、CO₂市場を通じて補償されます(約1,120トンのCO₂クレジット)。



写真提供: EDP

採掘プロジェクト – アフリカ(資料1)

企業

採掘プロジェクトは、異なる種類の鉱物約20万トンの容積の採掘場を持つ鉱業会社を対象としている。

背景

アフリカでの生産は2008年に始まり、2015年までのフル操業が期待される。このプロジェクトが査定した埋蔵量の寿命は35年で、これより延びる可能性もある。

課題

生物多様性への主な影響は、鉱区、および森を切り開いて通している200kmのスラリーパイプラインの上部に現れると予定される。採掘場のフットプリント(約2000ヘクタール)は、生態学的に敏感な自然林の中にある。



ケース・スタディー: 採掘プロジェクト – アフリカ

対応

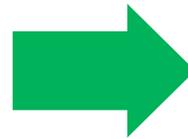
- ✧ BBOPの原理に従い(自発的、およびIFCパフォーマンス・スタンダード6への対応)、このプロジェクトにおいて生物多様性のノーネットロスを誓約。
- ✧ 影響の回避・緩和、復旧への着手、および残存影響の埋め合わせをするために、生物多様性管理プログラムが実施されている。
- ✧ 緩和措置の対象は、植物相、動物相、および水生動植物。
- ✧ 残存影響の埋め合わせのための選択肢には次のようなものがある。
 1. オフセット
 2. 回復
 3. 保安林
 4. 森林の回廊
 5. 保護地域
 6. 森林再生の回廊
 7. 代替の森林



採掘プロジェクト・ケース・スタディー：フリップチャート

ケース・スタディー の影響度

管理オプションを選択し、その
オプションを選択した理由を
書いてください。



質問・意見・感想…



モジュール4 ー 概要

- ✧ 基本事項の理解 ✓
- ✧ 政策および規制の枠組み ✓
- ✧ 階層的な緩和措置(ミティゲーション) ✓
- ✧ 補償およびオフセット ✓
- ✧ 報告および指標
- ✧ 現行の政策および規制



第7章 報告および指標

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



wbcSD business ecosystems training

報告の枠組み

ビジネスの分析的アプローチ: 金銭的

- ✧ 財務会計
- ✧ 管理会計
- ✧ フルコスト(環境)会計

ビジネスの分析的アプローチ: 持続可能性、非金銭的

- ✧ 企業の報告
- ✧ 環境管理システム



報告

共通の課題:

- ✧ 年次報告書での、生物多様性・生態系についての報告の欠如。
- ✧ 別途持続可能性報告書にて報告されることがある。
- ✧ 強制的な基準がない。

統合報告:

- ✧ 会計報告と会計以外の報告を統合することにより、バランスのとれた、意味のある会社の実態を提供できる。
- ✧ 生物多様性・生態系の課題は、経済価値が適切に反映されるように情報を管理・追跡すること。

フルコスト(環境)会計:

- ✧ 活動に伴なうコストと利益を認識する会計アプローチ。
- ✧ 通常は内部コストと利益のみ含むが、外部コストと利益(収益化あるいは非収益化)を含めることもできる。



GRI(Global Report Initiative)

GRI は包括的な持続可能性報告の枠組みを作るネットワークベースの組織:

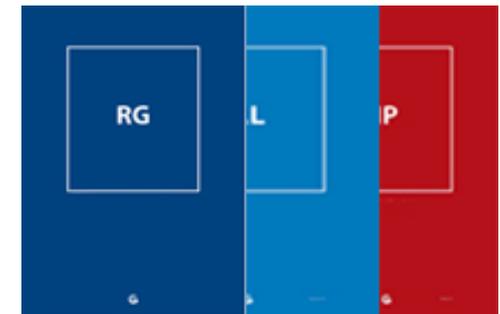
- ✧ 世界中で広く使用されている。
- ✧ 合意形成およびマルチステークホルダー・プロセスを経て発展。
グローバル企業、市民団体、労働・学術・専門機関などからの参加者。
 - GRIの核となる目標には、環境、社会、およびガバナンスの能力に関する情報開示を主流化することが含まれます。



GRI(Global Report Initiative) (続き)

持続可能性に関する報告の枠組みとして、組織が持続可能性に関するパフォーマンスを開示するためのガイドラインを提供しています。以下により構成されます。

- ✦ Sustainability Reporting Guidelines(持続可能性報告ガイドライン)
- ✦ Sector Supplements(業種別補足文書)
- ✦ Technical Protocol – Applying the Report Content Principles.
(技術的プロトコル: 報告内容原則の適用)
 - この枠組みは、どの部門または地理的地域の、どのような規模または種類の組織にも適用でき、世界中の数千の組織によって、持続可能性の報告作成のベースとして使用されてきました。



GRI指標

環境、人権、労働慣行とディーセントワーク(生きがいのある人間らしい仕事)、社会、製品責任、および経済という6つの区分があります。

これらの区分は、以下のような個々の指標で形成されます。

- ✦ 中核指標(計55件): GRIガイドラインで明らかにされた指標で、大部分のステークホルダーが関心を持ち、「GRI報告原則」に基づき特に重要でないと見なされる場合を除き、報告されるべきもの。
- ✦ 追加指標(計27件): GRIガイドラインで明らかにされた指標で新しい慣行を表し、あるいは重要である可能性のあるトピックを示す。



GRIの指標と生物多様性

GRIの環境セクションでは、生物多様性関連では以下の指標が適用されます。

EN11	保護地域内あるいはそれに隣接した場所および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域に、所有、賃借、または管理している土地の所在地および面積。
EN12	保護地域および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域での生物多様性に対する活動、製品およびサービスの著しい影響の説明。
EN13	保護または復元されている生息地。
EN14	生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画。
EN15	事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するIUCN(国際自然保護連合)のレッドリスト種(絶滅危惧種)および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類する。

主要指標

追加指標



Rio Tinto社による生物多様性の報告

生物多様性の価値の評価

✧ 2007年にグループ全体の生物多様性の価値の評価手順を作成し、行動の優先順位を決めるために、Rio Tinto社の所有する土地および周辺地域の生物多様性価値を評価している。

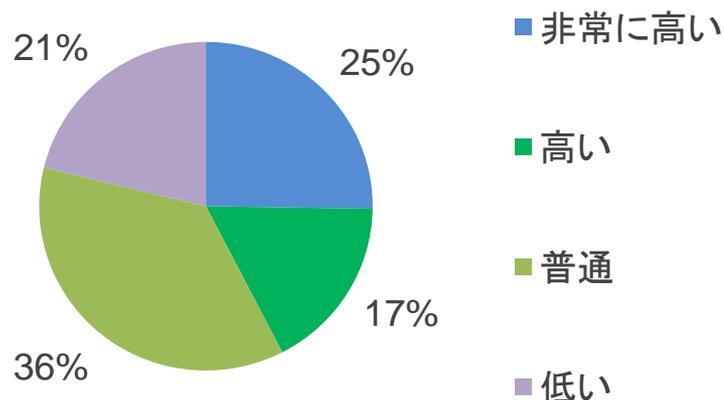
✧ 事業は、生物多様性価値が「非常に高い」、「高い」、「普通」、または「低い」のいずれかにランク付けされる。

✧ 生物多様性価値は以下に基づいて評価された。

- 生物多様性に富む生息地に近接した土地

- 保全の重要性のある種
- 追加の特定地域向けの背景
- 外部性保全の背景

生物多様性の価値の評価(2010)



British American Tobacco社

生物多様性の管理:

British American Tobacco Biodiversity Partnership (British American Tobacco社の生物多様性パートナーシップ)には以下が含まれます。

- ✧ Fauna & Flora International
- ✧ The Tropical Biology Association
- ✧ Earthwatch Institute

このパートナーシップでは、BAT社の主要な持続可能性報告とは別に、年間進捗報告を作成しています。



British American Tobacco社(続き)

✧ GRI生物多様性指標 EN11～EN15の報告

✧ 生物多様性の管理目標:

- リスクおよびチャンスの評価ツールの見直しと修正。
- リスクおよびチャンスの評価を使用し、潜在的な生物多様性関連のリスクを明らかにし、できれば緩和(ミティゲート)する。
- 生物多様性に関する理解度を高める
- 調査を行い、スリランカの自然林再生試験地域に野生生物が戻ったことを確認する。



環境管理システム

- ✧ 組織の環境への重大な影響を管理するための構造化フレームワーク。
- ✧ 環境に影響を与える可能性のある企業の活動、製品、工程、およびサービスの評価、および環境向上プログラムを含む。



環境管理システム(続き)

例: Holcim/IUCN生物多様性管理システム (BMS: Biodiversity Management System)

BMSの3段階実施の一部として使用される生物多様性リスクマトリックス

- ✧ 段階1: 潜在的な影響度を知る。
- ✧ 段階2: リスクに合った取り組みレベルを選ぶ。
- ✧ 段階3: 結果を観察して、目標に対する進捗を示す。

Biodiversity risk matrix (© 2010 Holcim)

Biodiversity Importance	Potential Impact			
	Very High	High	Medium	Unlikely
Global	Critical	Significant	Medium	Low
National	Critical	Significant	Medium	Low
Local	Significant	Medium	Low	Low
Low	Low	Low	Low	Low

Source: IUCN-Holcim independent expert panel adapted by Holcim 2010



環境管理システム(続き)

例: Holcim/IUCN BMS(続き)

- ✧ 500箇所以上のHolcim社の抽出拠点(70か国以上)の完全なリストがまとめられ、リスクマトリックスに基づいて分類された。
- ✧ 2013年までに、影響を受けやすい場所の80%で、生物多様性行動計画が実施される予定。

Biodiversity risk matrix (© 2010 Holcim)

Biodiversity Importance	Potential Impact			
	Very High	High	Medium	Unlikely
Global	Critical	Significant	Medium	Low
National	Critical	Significant	Medium	Low
Local	Significant	Medium	Low	Low
Low	Low	Low	Low	Low

影響を受けやすい場所には、生物多様性行動計画が必要

Source: IUCN-Holcim independent expert panel adapted by Holcim 2010



第8章 政策の枠組み

モジュール4: 影響度の管理および緩和(ミティゲート)



wbcSD business ecosystems training

現行の生物多様性／生態系サービスに関する法律

EU:

- ✧ Water Framework Directive (水政策枠組み指令)
- ✧ Marine Strategy Framework (海洋戦略枠組み指令)
- ✧ Environmental Liability Directive (環境債務指令)

米国:

- ✧ The Lacey Act (レイシー法)
- ✧ Endangered Species Act (種の保存法)

[カスタマイズ:特に自社のビジネスに影響を与える法律を追加できる。]

現行の生物多様性／生態系サービスに関する法律(続き)

南アフリカ

- ✧ 例: 南アフリカWater Law(1996年)
- ✧ 水を共有資源と見なし、最大限の平等と公平のために資源を再配分することを目指して政策を見直す。
- ✧ 不公平な個人所有を無効化し、水資源の管理者として政府を指名。
- ✧ 飲料水としての最低必要限度の水、および生態系が機能するための水(自由に利用可能)を確保。

[カスタマイズ:特に自社のビジネスに影響を与える法律を追加できる。]



現行の生物多様性／生態系サービスに関する法律（続き）

中国

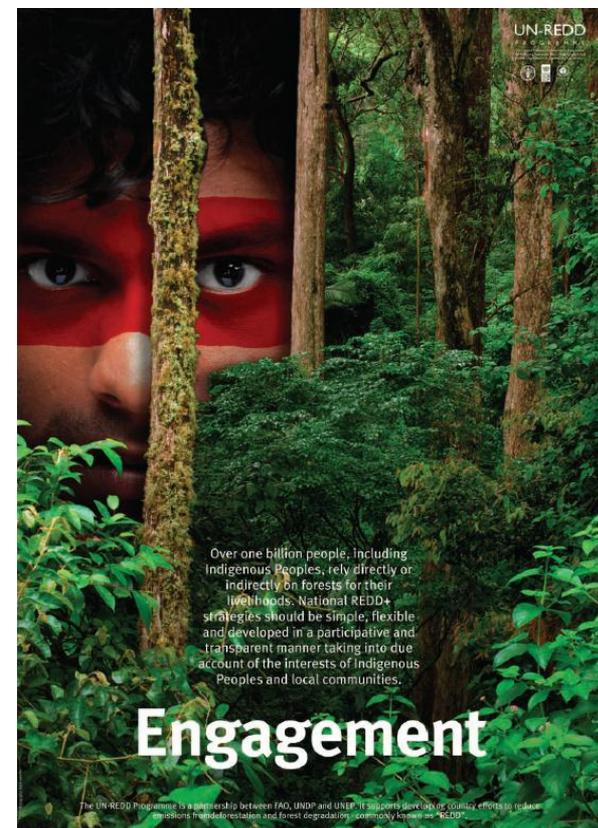
- ✧ 中国政府は水を最優先。
- ✧ 第12次5か年計画には、水の供給を改善するためのさまざまな範囲の目標および政策が含まれる。
- ✧ 国内の廃水処理場の数を2005年～2009年の間に18%、2009年～2012年の間に32%増やし、毎年5,200個の処理場を建設する。

[カスタマイズ:特に自社のビジネスに影響を与える法律を追加できる。]



REDD

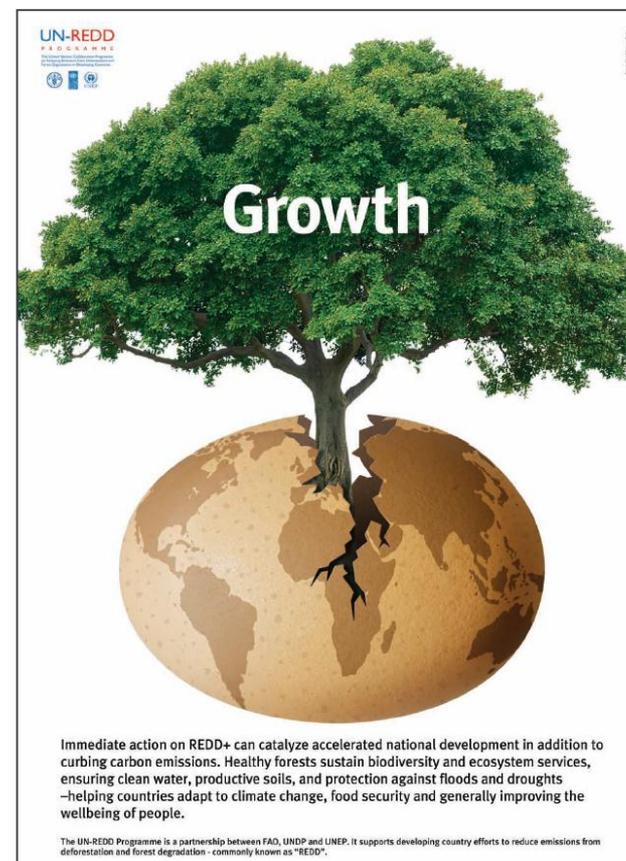
- ❖ Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation (途上国の森林減少・劣化に由来する排出の削減)
- ❖ 地球上の温室効果ガス全排出量の約20%
- ❖ REDD+に拡張された。さらに、農業、林業及びその他の土地利用に拡張される可能性あり。
- ❖ 先進国と発展途上国の間で費用を分け合うための市場／財政メカニズム
- ❖ 援助資金提供国：現在ノルウェーが最大の貢献国



出典：<http://www.un-redd.org/>

REDD — 課題および不確実性

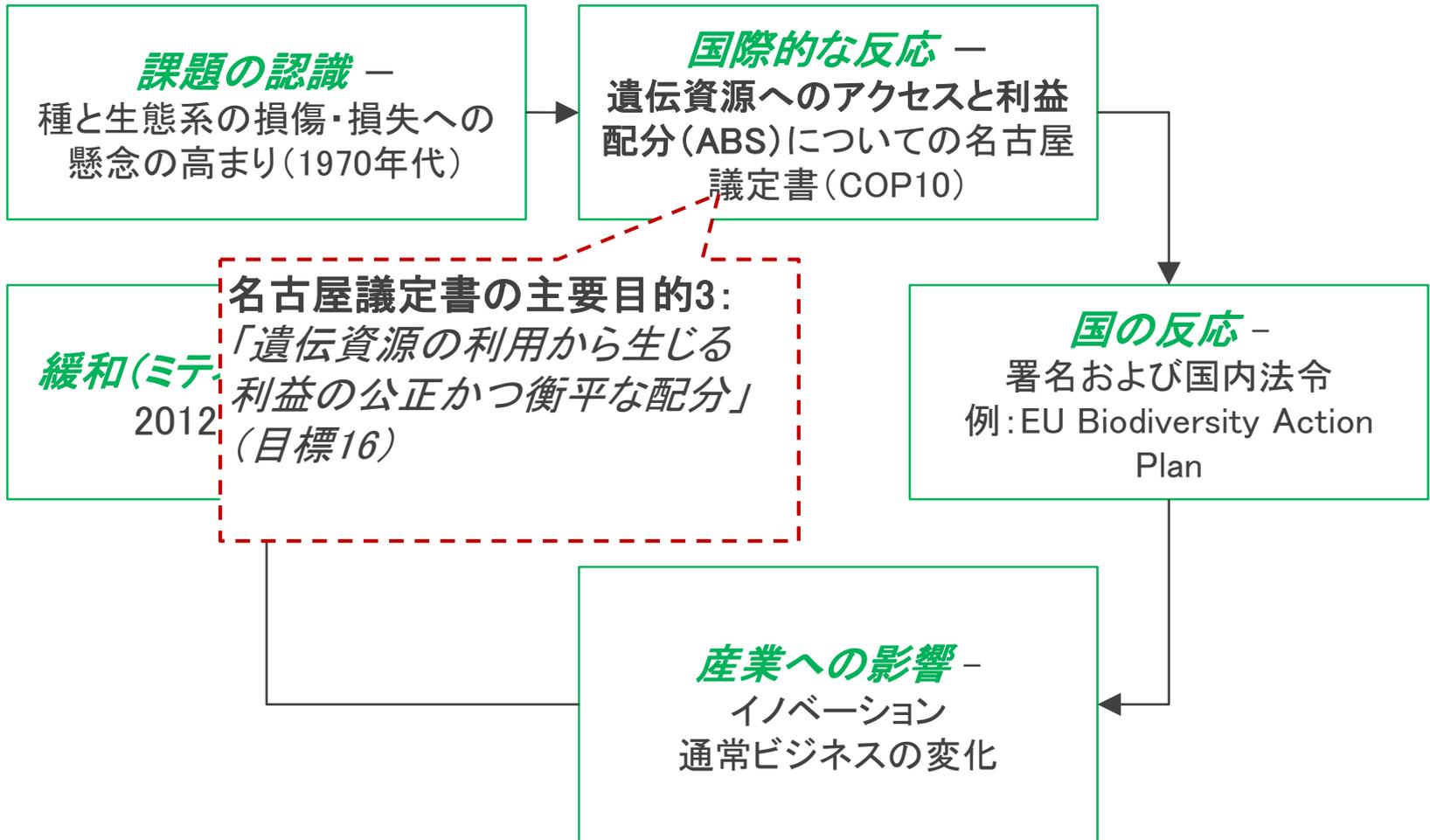
- ❖ 森林破壊に由来する温室効果ガスの排出量削減が困難：漏出、追加性、効率、測定など
- ❖ 財政がどのように機能するか？オフセット、排出量取引、義務目標など
- ❖ 基準レベルと測定
- ❖ 利益の配分



出典：<http://www.un-redd.org/>

出典：<http://www.redd-monitor.org/>

国際政策の動向：生物多様性条約(CBD)の導入



生物多様性条約(CBD) — 名古屋議定書(2010年)

2011年から2020年までの戦略計画には以下が含まれます。

- ✧ 資源動員: 政府による援助 vs 「革新的な資金調達メカニズム」
- ✧ 持続可能な利用の奨励、そして生物多様性、開発、および貧困の軽減へのかかわり
- ✧ 保護地域と保全
- ✧ 遺伝資源へのアクセスと利益配分



方針および行動を定義するためのその他の(愛知)目標

2020年まで:

- ❧ 目標2: 生物多様性の価値が、戦略や計画プロセスに統合され、国家勘定や報告制度に組み込まれている。
- ❧ 目標3: 補助金を含む生物多様性に有害な奨励措置が段階的に廃止され、生物多様性の保全及び持続可能な利用のための正の奨励措置が策定され、適用される。
- ❧ 目標5: 森林を含む自然生息地の損失の速度が半減しまた可能な場合にはゼロに近づく。
- ❧ 目標7: 農業、養殖業、林業が行われる地域が、生物多様性の保全を確保するよう持続的に管理される。
- ❧ 目標11: 少なくとも陸域及び内陸水域の17%および沿岸域及び海域の10%の保全。
- ❧ 目標15: 少なくとも15%以上の回復を含む生態系の保全と回復。

2015年まで:

- ❧ 目標16: 利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書が、国内法制度に従って施行され、運用される。



遺伝資源へのアクセスと利益配分 (Access and Benefits Sharing)の原則

- ❖ 保全、持続可能性、および公正かつ衡平という生物多様性条約(CBD)の3つの目的のうちの1つ。
- ❖ (対象を)以下に拡張:
 - 生物多様性および生態系サービスから生じるすべての利益に拡張
 - 一般参加型計画、知識管理、およびキャパシティビルディングを通じた実施の強化
 - 5つの戦略目標内の20個の個別目標 – 愛知目標
- ❖ 遺伝子資源および伝統的な知識の利用に関連 – CBDの中心となる目的
- ❖ これらの資源にアクセスするための価格は、資源保護のためのインセンティブとするべき。
- ❖ 遺伝子資源の商業的価値は、通常、民間セクターの費用のかかる研究開発に由来するということを認識する必要がある。



遺伝資源へのアクセスと利益配分 (Access and Benefits Sharing)の原則(続き)

ABSとは？

- ✧ 遺伝子資源へのアクセス方法
- ✧ 遺伝子資源利用による利益の配分について
利用者と提供者が合意に達する方法

利用者の遺伝子資源へのアクセスの目的:

- ✧ 科学研究(例:分類学)
- ✧ 商品の開発(例:医薬品)

遺伝子資源提供者のアクセス許可に対する対価:

- ✧ 遺伝子資源利用による利益の分配



遺伝資源へのアクセスと利益配分 (Access and Benefits Sharing)の原則(続き)

遺伝子資源へのアクセスを試みる利用者は以下が必要:

- ✧ 提供国からの許可を得ること(事前の情報に基づく同意(PIC))

提供者と利用者は以下が必要:

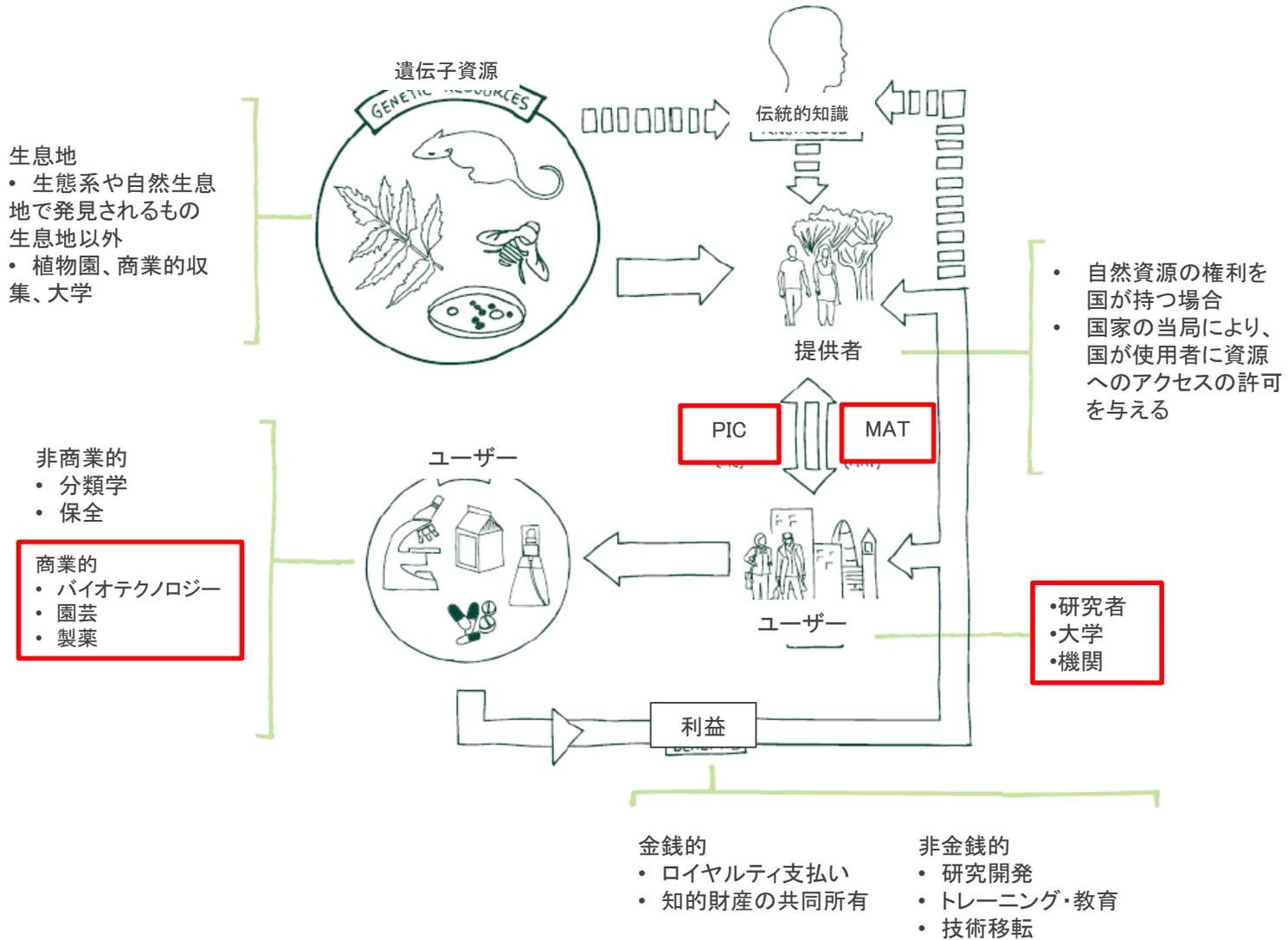
- ✧ 結果として生じた利益の配分について協議し合意すること(相互に合意する条件(MAT))

遺伝子資源利用による生じる利益:

- ✧ 研究開発が商品につながった場合の金銭的利益(例:特許使用料、目標達成報奨金、ライセンス料など)
- ✧ 非金銭的利益(例:技術移転、調査スキルの強化など)



遺伝資源へのアクセスと利益配分 (Access and Benefits Sharing)の原則(続き)



出典: CBD <http://www.cbd.int/abs/infokit/powerpoint/revised/all-slides-en.pdf>



遺伝資源へのアクセスと利益配分のケース・スタディー : Natura社

課題

ビジネスプラットフォームとしての持続可能性

- ✧ ブラジルの化粧品、香水、個人衛生用品の会社
- ✧ 2000年以來、ブラジルの生物多様性の持続可能な利用をビジネスプラットフォームとして採用
- ✧ 消費者に分化した品質を提供する製品の開発に伝統的な知識を利用するとともに、コミュニティとのパートナーシップを通じて社会環境的な利益をもたらす。
- ✧ 約100個の製品で構成されるNatura社の「Ekos」シリーズ



写真提供: Natura



遺伝資源へのアクセスと利益配分のケース・スタディー : Natura社 (続き)

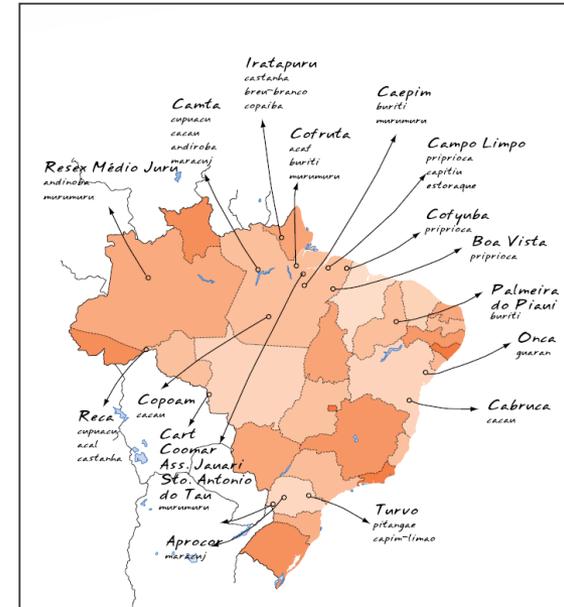
対応

生物多様性条約(CBD)の基準を尊重

Natura社の「Ekos」シリーズ

- ❖ 新製品開発時に原料を調達するため、先住民のコミュニティとのパートナーシップを確立。
- ❖ CBDの原則を導入して、フェアトレード、持続可能な利用、社会的発展、および生物多様性保全の促進に努めている。
- ❖ 26のコミュニティとのパートナーシップを確立：
天然成分へのアクセスの提供、および伝統的な知識の共有の見返りとして、地域社会は支払い、および地域開発へのNatura社による投資という利益を受ける。

ブラジル全土の供給者コミュニティ



写真提供: Natura

遺伝資源へのアクセスと利益配分のケース・スタディー ： Natura社（続き）

対応（続き）

2010年に伝統的なコミュニティから受け取った価値：

	2010 '000 USD
供給	2,481
利益の配分	840
地域開発ファンド	880
イメージの使用	43
トレーニング	105
認証とマネジメント	120
調査、コンサル、支援	469
全体	4,938



遺伝資源へのアクセスと利益配分のケース・スタディー： Natura社（続き）

結果

双方に有利な(win-win)パートナーシップ

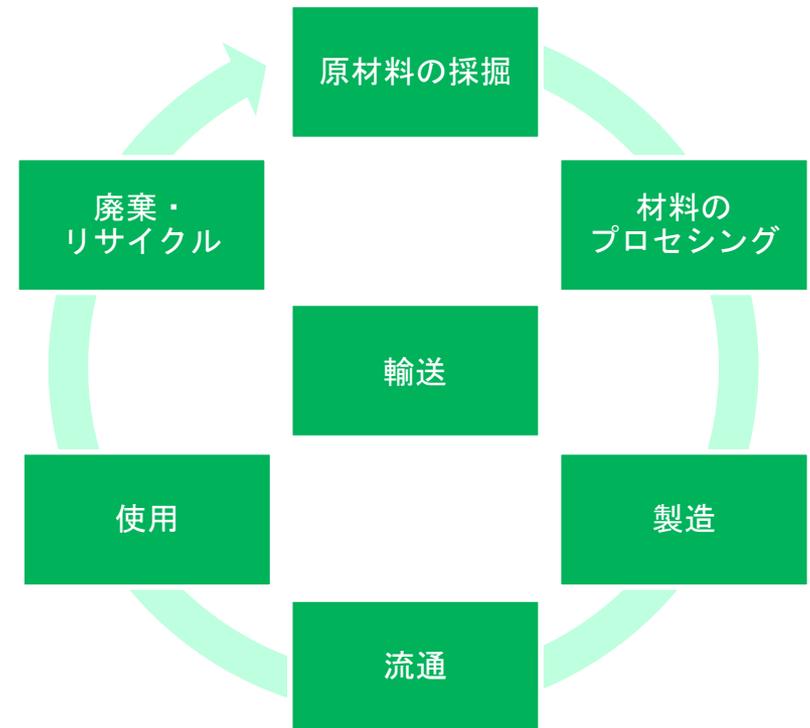
- ✦ ビジネスモデルが好循環を生み出す。原産地に価値を返すと同時に、収益を生んで分配する。
 - 活動がパートナーの家族やコミュニティの利益になる。
 - Natura社は、消費者により高い価値を与える製品による増収で、そのビジネスプラットフォームから利益を得る。
 - 消費者には、高品質の天然成分から成る製品が提案される。
 - 環境保全上の利点：コミュニティは森を保護し、現在および未来の世代に対してより質の高い生活を保証する。
- ✦ 例：Maracatu プロジェクト



持続可能な調達方針

基本コンセプトのおさらい:

- ✧ バリューチェーンおよび持続可能性
- ✧ 持続可能なバリューチェーンを展開するための6つの要素
- ✧ 持続可能な調達



出典: *Collaboration, innovation, transformation. Ideas and inspiration to accelerate sustainable growth – A value chain approach*, WBCSD (2012)



持続可能な調達方針（例）

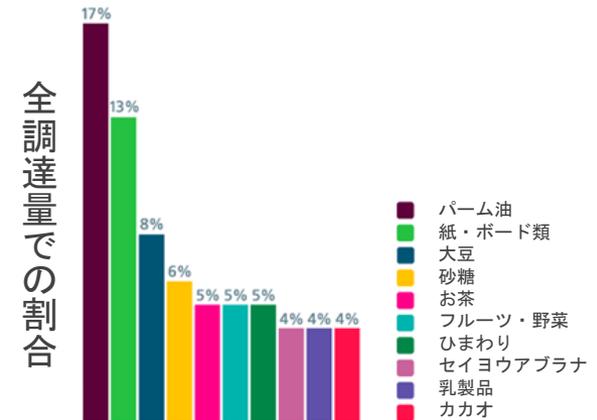
Unilever

- 「現在我が社は、自社で使用する農業原材料の10%を持続可能な形で調達しています。2012年までに30%、2015年までに50%、2020年までに100%にする予定です。」

“Today we source 10% of our agricultural raw materials sustainably. By 2012 we will source 30%; by 2015 50%; and by 2020 100%”

- 持続可能な農業規約(Sustainable Agricultural Code) および11件の主要指標
- 認証および自己検証を通じた持続可能な調達の評価

農業原材料トップ10 (2009年の農業関連総量での割合)



損保ジャパン

- バリューチェーン全体にわたって広められたグリーン調達方針
- グリーン購入ネットワーク（GPN）とのパートナーシップ
- 4,000以上の団体に採用された自発的な調達システム



持続可能な木材・紙製品の調達ガイド

(Sustainable Procurement Guide for Wood and Paper-Based Products)

知っておくべき10項目

調達および合法性の側面

起源	製品はどこから来たのか？
情報の精度	製品についての情報は信用できるか？
合法性	製品は合法的に生産されたか？

環境側面

持続可能性	森は持続的に管理されてきたか？
特別な場所	影響を受けやすい生態系をはじめとする特別な場所は保護されてきたか？
気候変動	気候の課題への対処は行われたか？
環境保護	適切な環境管理が実施されたか？
再生繊維	再生繊維は適切に利用されたか？
他の資源	他の資源は適切に利用されたか？

社会的側面

地域コミュニティおよび先住民	地域コミュニティまたは先住民の要求には対処したか？
----------------	---------------------------

出典：WBCSD, Sustainable Procurement of Wood and Paper-Based Products



グリーン調達政策： EUグリーン公的調達（GPP）



- ❖ 公共企業体が主要な消費者。年間約2兆ユーロ（EUのGDPの19%）を費やす。
- ❖ 政府の購買力を利用するための、全EU加盟国に対する政府の購買基準(Mandatory Government Buying Standards)
- ❖ 自発的なGPPの手段。

[カスタマイズオプション：別の国の事例を説明したい場合には、以下のURLに、EU加盟国のGPPの詳細およびリンクがあります。

http://ec.europa.eu/environment/gpp/pdf/national_gpp_strategies_en.pdf]



グリーン調達政策： EUグリーン公的調達（GPP）（続き）



✧ 英国政府の購買基準(UK Government Buying Standards)

✧ EU GPPと同じ以下の主要製品が対象

- 洗剤
- 建設
- 電気／電気製品／
エネルギー使用製品
- 食品
- 家具
- ガーデニングサービス／
園芸
- オフィスICT装置
- 紙
- 繊維
- 輸送



ビジネスがかかわれるチャンス

- ✧ 他のステークホルダーとのパートナーシップが、共通の生物多様性／生態系の目標を達成する鍵となる。
 - 国の政策／国際政策におけるビジネス取引
 - NGOおよび市民社会とのビジネス連携
 - OECDグリーン成長円卓会議
- ✧ WBCSDのプロジェクト
「持続可能な消費およびバリューチェーン・システム解決策」
(Sustainable Consumption and Value Chain System Solution)
- ✧ 他のグループ：IUCN、GRIなど

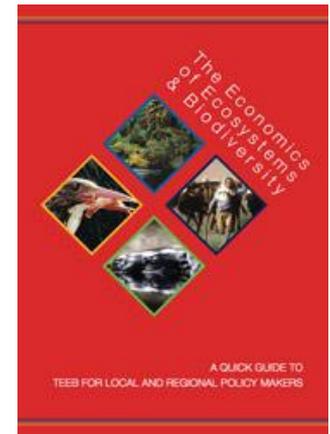
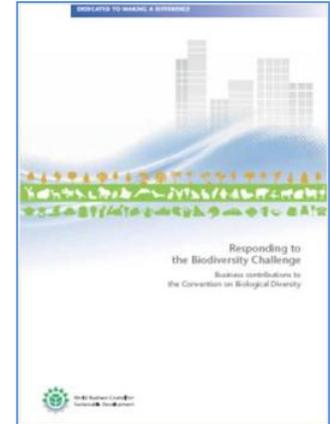


ビジネスによる広範なソリューション および各分野での適用例

- ✧ WBCSDの「生物多様性の課題への対応」
 - 16か国15部門からの28ケース・スタディーを公表
 - ケース・スタディーの多くが、新(愛知)目標に対応 – 1事例が目標1項目ごとに説明されている。
 - www.wbcSD.org/work-program/ecosystems.aspx

- ✧ 生態系と生物多様性の経済学(TEEB)は、特別版として「ビジネスのためのTEEB」と「イギリスの生態系サービス評価(National Ecosystem Assessment)」を公表。
 - www.teebweb.org

- ✧ 上記資料活用により従業員の理解度が向上



第9章

知識の共有 — 生態系への影響度を管理・緩和 (ミティゲート) するための規制・政策

モジュール4：影響度の管理および緩和（ミティゲート）



グループ・エクササイズ：フリップチャート

関心のある法律を書き出してください。

各企業・部門での実施事項
(コミットメント) を書き出してください。



[カスタマイズ：講師ガイド中の一覧から質問事項を選べます。]



質問・意見・感想...



第10章：まとめ

モジュール4：影響度の管理および緩和（ミティゲート）



wbcSD business ecosystems training

モジュール4 — 目的

このモジュールを終えると、受講者は以下ができるようになります。

1. 環境への影響に対処して影響を緩和（ミティゲート）するため、そしてより良い経営に向けてビジネス手法を強化するために、主要な方針および方針メカニズムを定義する。
2. 影響度を管理および緩和（ミティゲート）するためにビジネス事例を明らかにする。
3. 階層的な緩和措置（ミティゲーション）を適用する。つまり企業自らが与えた影響に対して緩和（ミティゲーション）、オフセット、および補償をどのようにするかというアイデアを発展させる。
4. 規制の枠組みおよび政策の仕組みが研修受講者の雇用主にどのように関連しているかを行動計画を通して明らかにする。



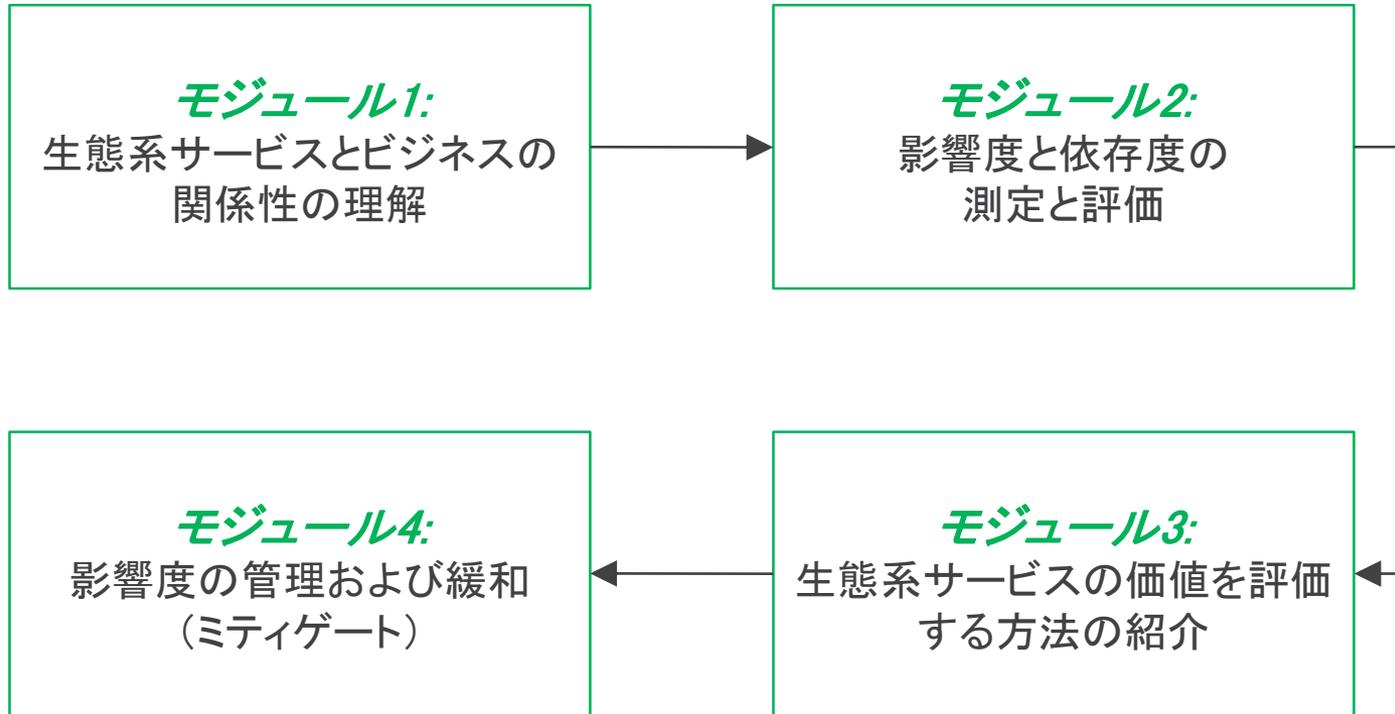
モジュール4 ー 概要

- ✧ 基本事項の理解 ✓
- ✧ 政策および規制の枠組み ✓
- ✧ 階層的な緩和措置(ミティゲーション) ✓
- ✧ 補償およびオフセット ✓
- ✧ 報告および指標 ✓
- ✧ 現行の政策および規制 ✓



どこまで学習できたでしょうか？ [オプション]

モジュール1～4: 概説



モジュール1 – おさらい [オプション]

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 変化の要因、およびビジネスの影響度と依存度
- ✧ 持続可能性との関係
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 政策と規制の枠組み



モジュール2 – おさらい [オプション]

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 政策と規制の枠組み
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 「企業のための生態系サービス評価（ESR）」の紹介
- ✧ ツール、枠組み、および手順の紹介



モジュール3 – おさらい [オプション]

- ✧ 基本事項の理解
- ✧ 政策と規制の枠組み
- ✧ 行動のためのビジネス事例
- ✧ 「企業のための生態系評価ガイド(CEV)」の紹介
- ✧ CEVスクリーニング・支援ツールと方法論



復習…

目標は達成できたでしょうか？



行動計画

生態系サービスが自社の状況とどのように関連しているかを明らかにします。

参考文献

- ✧ WBCSB May CEV helpdesk presentation
- ✧ WBCSD, Responding to the Biodiversity Challenge
- ✧ WBCSD, Effective biodiversity and ecosystem policy and regulation
- ✧ WBCSD. Connecting the dots
- ✧ WBCSD, case studies
- ✧ WBCSD. Sustainable Procurement of Wood and Paper-based Products Guide and Resource Kit. Available from:
<http://www.wbcd.org/Pages/EDocument/EDocumentDetails.aspx?ID=183&NoSearchContextKey=true>
- ✧ WBCSD, CEV helpdesk September 2011
- ✧ WBCSD, CEV helpdesk presentation July 2011
- ✧ WBCSD, Effective Biodiversity and Ecosystem Policy and Regulation
- ✧ BBOP website:
<http://bbop.forest-trends.org/site/misc/Slide1.ppt>
<http://bbop.forest-trends.org/offsets.php>
<http://bbop.forest-trends.org/guidelines/glossary.pdf>
<http://bbop.forest-trends.org/guidelines/principles.pdf>
- ✧ TEEB for National and International Policy Makers
- ✧ TEEB for business –
<http://www.teebweb.org/LinkClick.aspx?fileticket=26aoFB8xrwU%3d&tabid=1021&language=en-US>



参考文献(続き)

- ✧ IFC:
http://www.ifc.org/ifcext/footprint.nsf/Content/Environment_Procurement
- ✧ European Commission –
http://ec.europa.eu/agriculture/capexplained/sustain/index_en.htm
- ✧ Green Development Initiative – <http://gdi.earthmind.net/>
- ✧ Rio Tinto and Biodiversity,
<http://www.riotinto.com/documents/ReportsPublications/RTBiodiversitystrategyfinal.pdf>
- ✧ Ecosystem market place report,
http://www.envliability.eu/docs/REReviewUS_D6A_Stratus_FINAL.pdf
- ✧ <http://www.wbcsd.org/DocRoot/bR7dwpBEOAEx2dbLKFF8/EDPBiodiversityFund.pdf>
- ✧ GRI portal – <http://www.globalreporting.org>
- ✧ GRI portal. G31 Guidelines including Technical Protocol Final –
<http://www.globalreporting.org>



参考文献(続き)

政策動向の章:

- ✧ <http://www.environmentlaw.org.uk/rte.asp?id=108>
- ✧ <http://www.povertyenvironment.net/files/IUCN%20-%20Implementing%20TEEB%20for%20Business%20-%20public.pdf>
- ✧ <http://www.st-andrews.ac.uk/~dib2/atmos/control.html>
- ✧ <http://www.clubofrome.org/?p=326>
- ✧ http://www.un.org/esa/sustdev/csd/csd15/media/backgrounder_brundtland.pdf
- ✧ <http://www.un.org/geninfo/bp/enviro.html>
- ✧ <http://www.un.org/geninfo/bp/envirp2/html>
- ✧ http://ozone.unep.org/Publications/MP_Acheivements-E.pdf
- ✧ <http://www.cites.org/>
- ✧ <http://www.cites.org/common/prog/african-cherry/11-CUNNINGHAM.pdf>
- ✧ <http://www.doc.govt.nz/upload/documents/about-doc/role/international/cites-crocs.pdf>
- ✧ <http://www.un-redd.org/>
- ✧ <http://www.un-redd.org/AboutREDD/tabid/582/Default.aspx>
- ✧ <http://www.redd-monitor.org/>
- ✧ <http://www.environment.gov.au/epbc/publications/consultation-draft-biodiversity-policy.html>
- ✧ http://www.wwf.org.za/what_we_do/outstanding_places/fynbos/biodiversity_wine_initiative
- ✧ http://www.conservation.org/sites/celb/fmg/articles/Pages/070199_energy_biodiversity_initiative.aspx



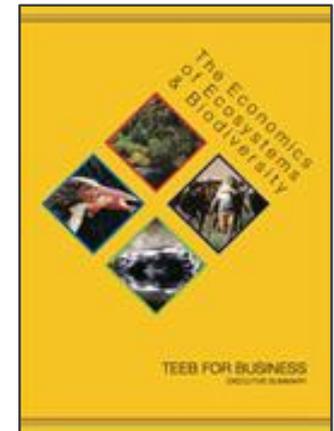
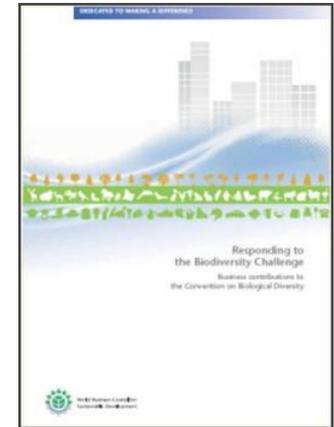
行動計画

ステップ1：理解の確立

- ✧ 自社内で、または他社との協力関係における業界での新たな取り組みとして、BETの利用を検討します。

ステップ2：他の公的に入手可能な参考資料の利用

- ✧ 以下をはじめとする、WBCSDケース・スタディーの事例および出版物を見直します。
 - ケース・スタディー：特定のCEV（企業のための生態系評価）ロードテスト試験者により補完された、16か国・15部門からの28を超える事例
 - 出版物：*Guide to Corporate Ecosystem Valuation*、*Corporate Ecosystem Valuation: Building the Business Case*、*The Corporate ESR, Responding to the Biodiversity Challenge*、および*Connecting the Dots: The nexus between business & ecosystems*.
- ✧ 他の主要な参考資料：The Economics of Ecosystems and Biodiversity (TEEB) reports (specifically TEEB for business)、およびThe Millennium Ecosystem Assessment and the UK National Ecosystem Assessment



行動計画（続き）

ステップ3：ネットワークへの参加と専門家との連絡

WBCSD Ecosystems Focus Area（WBCSD生態系フォーカスエリア）への参加を検討しましょう

（<http://www.wbcd.org/work-program/ecosystems.aspx>）

WRIのEcosystem Services Experts Directory（生態系専門家ディレクトリ）を利用しましょう（<http://projects.wri.org/ecosystems/experts>）

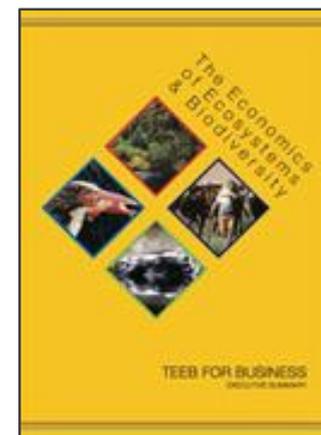
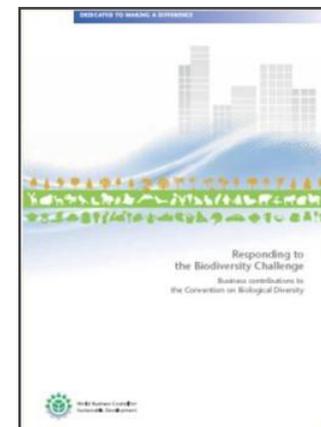
ステップ4：試験的实施

生物多様性のリスクとチャンスの内部評価を試験的に実施しましょう

選択したプロジェクト、場所、またはサプライチェーンの段階に対して、企業による生態系評価または生態系サービス評価を試験的に実施しましょう

ステップ5：実施

WBCSD生態系フォーカスエリアチームと連絡を取り、国際的専門家と協力して完全な実施戦略の計画を立てましょう



免責事項

ビジネス・エコシステム・トレーニング (Business Ecosystems Training: BET) は、WBCSDから発行された学習プログラムです。KPMGの事務局やシニア・エグゼクティブをはじめ、メンバー企業、リージョナル・ネットワーク・パートナー、NGO、国連、学術機関などから構成されるアドバイザリー委員会のメンバーの共同努力により作成されています。さまざまなメンバーが草案を検討した結果、BETは広くWBCSDメンバーの大多数の総意を表しています。しかし、すべてのメンバー企業があらゆる点で合意しているわけではありません。

ビジネス・エコシステム・トレーニング (Business Ecosystems Training: BET) は学習のみを目的として用意されており、専門家のアドバイスという主旨ではありません。特定の専門家からのアドバイスを得ずに、BETの情報のみに基づいて行動しないでください。BETの情報およびその他言語での翻訳の正確性や完全性については、(明示的、暗示的に) 何ら表明されるものでなく、保証されるものでもありません。研修受講者をはじめ他のすべての人々が、この研修プログラムに記載されている情報によって起こした行動、または行動の自制によりもたらされるあらゆる結果やそれに基づく決定に対し、WBCSD、KPMG、アドバイザリー委員会、そのメンバー、従業員、および政府職員は、法律の許す範囲で一切の義務、責任、および注意義務を負いません。

英語版 発行月 2012年2月 (日本語版 発行月 2014年3月)

(英語原文)

Business Ecosystems Training (BET) is a capacity building program released in the name of the WBCSD. It is the result of a collaborative effort by members of the secretariat and senior executives from KPMG and an Advisory Committee composed of member companies, Regional Network partners, NGOs, UN and academic institutions, and others. A wide range of members reviewed drafts, thereby ensuring that BET broadly represents the majority of the WBCSD membership. It does not mean, however, that every member company agrees with every word.

Business Ecosystems Training (BET) has been prepared for capacity building only, and does not constitute professional advice. You should not act upon the information contained in BET without obtaining specific professional advice. No representation or warranty (express or implied) is given as to the accuracy or completeness of the information contained in BET and its translations in different languages, and, to the extent permitted by law, WBCSD, KPMG, members of the Advisory Committee, their members, employees and agents do not accept or assume any liability, responsibility or duty of care for any consequences of you or anyone else acting, or refraining to act, in reliance on the information contained in this capacity building program or for any decision based on it.

Copyright © World Business Council for Sustainable Development





wbcasd business ecosystems training